学び、究め、貢献する 岐阜大学 GIFU UNIVERSITY


最優秀賞　「岐阜に現れた『龍の巣』」

発展し続ける岐阜大学～どうする次の10年～

岐阜大学長　吉田和弘


優秀賞
「裏山より」


優秀賞
「雪の日の時計塔」


佳作
「雪の日の朝」


佳作
「青と秋」


第4回最優秀賞
「What is this?」


第3回最優秀賞
「台風一過の夕空」


第２回最優秀賞
「十四夜月に照らされる特別支援教育センター」


第１回最優秀賞
「冬はつとめて」

第5回岐阜大学フォト＆アートコンテスト　受賞作品
https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/photo_art_contest/05.html

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立大学機構
岐阜大学

2026.10.31　第4回 岐阜大学ホームカミングデイ

発展し続ける岐阜大学～どうする次の10年

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立大学機構
岐阜大学

目次

01 東海国立大学機構 ミッション・ビジョンと共発展モデル

02 岐阜大学の組織・ビジョン・戦略
岐阜大学の教育研究組織及び執行部
ミッション・ビジョン・戦略
ぎふのミ・ラ・イ・エ構想

03 法人統合による効果
学生にとってのメリット
連携拠点支援事業

04 岐阜大学の活動実績等
活動実績・受賞歴・基金　外

05 教育改革
入試改革
教養教育改革
組織整備

06 研究力強化の方向性
第4.X世代大学　4th Generation University+
大学の現状と課題及び改革の方向性

07 岐阜大学の役割と ミッション実現化に向けた構想
キャンパスまるごと共創型社会実装大学構想
岐阜県まるっとキャンパス構想

08 国際展開
インド工科大学グワハティ校との交流
日印経済フォーラム

09 地域と共に発展し続ける岐阜大学

東海国立大学機構のミッション・ビジョンと共発展モデル

各大学が役割を持ってミッション・ビジョンを達成する共発展モデルの実現を目指す

ミッション

「Make New Standards for The Public」

東海国立大学機構が知とイノベーションのコモンズとして、常に国立大学 の新たな形を追求し、地域と人類社会の進歩に貢献し続けることを、存在 意義 とする。

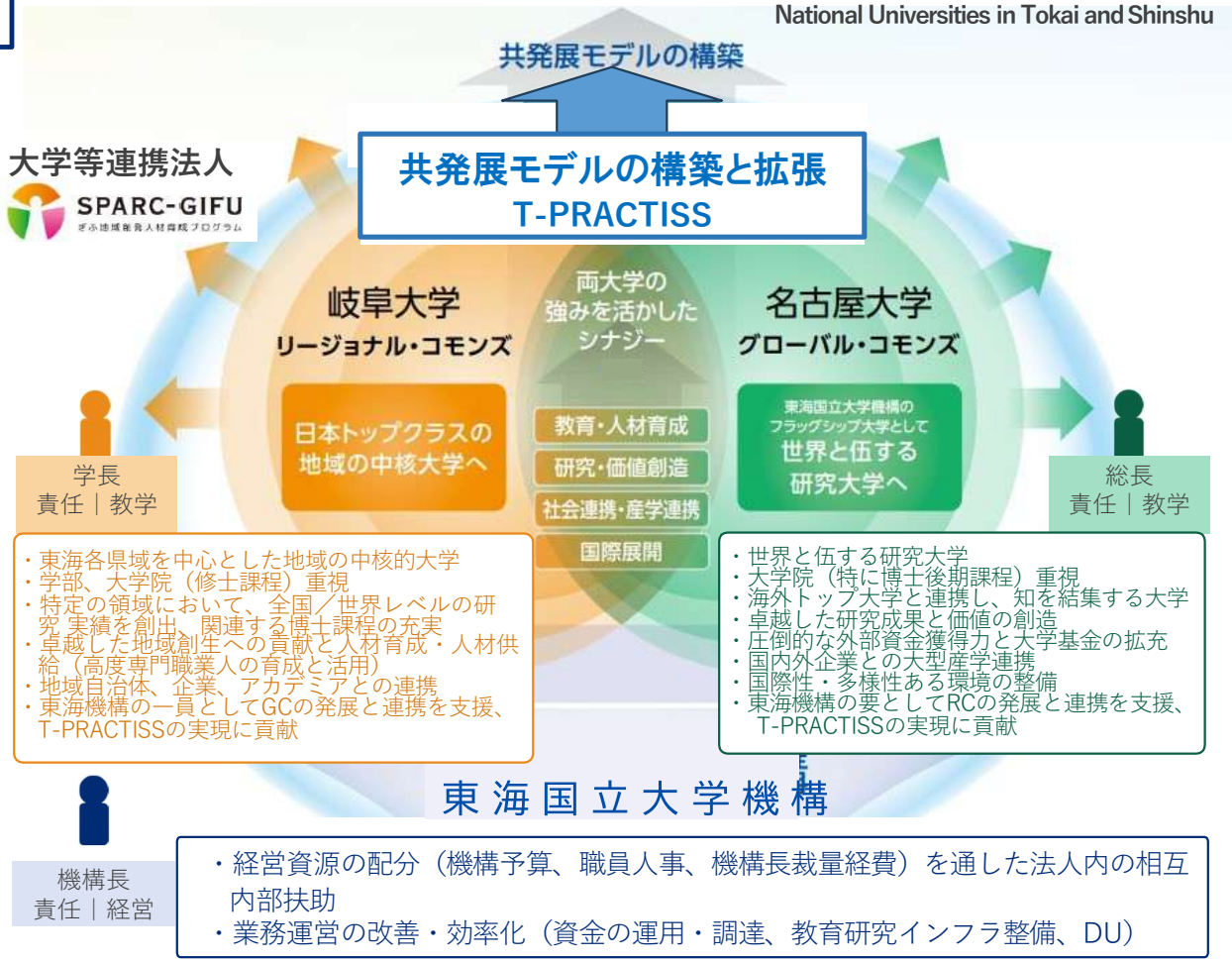
ビジョン（6～10年後のありたい姿）

「知とイノベーションのコモンズとして、
地域と人類社会の課題解決に貢献する新たな国立大学を確立」

名古屋大学は世界と伍する研究大学を、岐阜大学は日本トップクラスの地域の中核大学を目指す。東海国立大学機構は、それらの取り組みを全面支援するとともに両大学連携による連携拠点支援事業や基盤整備事業、社会連携事業を整備、拡充する。6～10年以内に知とイノベーションのコモンズを実現し、社会の公共財としての新たな国立大学モデルを確立する。

ミッション・ビジョン実現のための戦略
“4x4”ストラテジー
東海機構における大学間連携

C²-FRONTS※ ※東海・信州国立大学連携プラットフォーム Collaboration and Co-creation Framework of National Universities in Tokai and Shinshu



2.岐阜大学の組織・ビジョン・戦略

岐阜大学の教育研究組織及び執行部

学部等

教育学部 — 2023年に150周年
- 附属小中学校
- 附属特別支援教育センター
- 附属学習協創開発研究センター
- 教育学部事務部

1873年岐阜師範学校
1874年開校

地域科学部
- 地域科学部事務部 1965年 旧教養部

医学部 — 2024年に80周年
- 附属病院 2024年に150周年
- 医学教育開発研究センター（医学教育共同利用拠点）
- 附属地域医療医学センター
- 附属量子医学イノベーションリサーチセンター
- 医学系研究科・医学部事務部

1944年
岐阜県立女子医学専門学校

工学部 — 2022年に 80周年
- 附属インフラマネジメント技術研究センター
- 附属応用気象研究センター
- 附属プラズマ応用研究センター
- 附属宇宙研究利用推進センター
- ものづくり技術教育支援センター
- 工学部事務部

1942年
岐阜県立高等工業学校

応用生物科学部 — 2023年に100周年
- 附属岐阜フィールド科学教育研究センター
- 附属動物病院
- 附属野生動物管理学研究センター
- 附属共同獣医学教育開発推進センター
- 附属家畜衛生地域連携教育研究センター
- 応用生物科学部事務部

1923年
岐阜高等農林学校

社会システム経営学環 2021年度新設

大学院

- 教育学研究科 — 心理教育相談室
- 地域科学研究科
- 医学系研究科
- 工学研究科
- 自然科学技術研究科
- 共同獣医学研究科 — 岐阜大学 / 鳥取大学
  - 附属獣医学教育研究開発推進センター
- 連合農学研究科 — 岐阜大学 / 静岡大学
- 連合創薬医療情報研究科 — 岐阜大学 / 岐阜薬科大学

社会システム経営学院 2024年度新設

教育研究院

※本学は教教分離を行っており教員は全て教育研究院に所属する

- 高等研究院
- 糖鎖生命コア研究所
- 保健管理センター

※本部事務組織及び運営支援組織は除く

- 航空宇宙生産技術開発センター
- 地方創生ｴﾈﾙｷﾞｰｼｽﾃﾑ研究ｾﾝﾀｰ
- 地域連携ｽﾏｰﾄ金型技術研究ｾﾝﾀｰ
- Guコンポジット研究センター
- 先制食未来研究センター
- Coデザイン研究センター
- 微生物遺伝資源保存センター
- 地域減災研究センター
- 人工知能研究推進センター
- 科学研究基盤センター
- 全学技術センター
- One Medicineﾄﾗﾝｽﾚｰｼｮﾅﾙﾘｻｰﾁｾﾝﾀｰ
- 環境社会共生体研究センター







学長



吉田和弘
（2022年4月　就任）

副学長等



王　志剛
筆頭副学長（総括・研究(連携拠点支援事業除く)・IR(副)・産学官連携・地域創生・ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ・財務担当）



杉山　誠
副学長（地域連携（SPARC等）・総務・ハラスメント・施設担当）



神原　信志
副学長（企画(組織改革）・評価（中期目標・中期計画）・情報基盤・DU）



益子　典文
副学長（教育・学生支援・地域連携（SPARC等)(副)担当）



大藪　千穂
副学長（多様性・ジェンダー(男女共同参画)・人権（副）・広報・ブランディング・基金・図書館担当）



リム リーワ
副学長（国際展開・多様性・ジェンダー(男女共同参画)(副)・人権・図書館(副)担当）



秋山　治彦
副学長（人事・連携拠点支援事業・IR・法務・公正研究・リスク管理・産学官連携（副）スタートアップ（副）担当）



清水　雅仁
医学部附属病院長

岐阜大学のミッション・ビジョン・戦略

岐阜大学のミッション・ビジョンと戦略

－日本トップクラスの地域の中核大学を目指します－

ミッション

洗練された「人が育つ場」の中で、社会を牽引し、未来を創造しうる「学び、究め、貢献する」人材を輩出する。

ビジョン

地域共創、特色ある研究、イノベーション、教育を戦略的に推進し、地域と人類の課題解決に貢献する「地域活性化の中核拠点」となる。

学長のリーダーシップによる自律的なマネジメント改革

ガバナンス	一法人複数大学制の下、機構（法人）と構成大学間の連携強化、経営・教学の分離および監督・執行の分離体制の整備
資源配分	ポイント制による教員人件費管理、トータルバジェットでの資源配分、成果に基づく指標の活用など
地域貢献	地域ステークホルダーとの対話のもと、オープンイノベーション推進施設・設備や仕組みを整備など
財源の多様化	各種外部資金の獲得、クラウドファンディング、保有資産活用、研究成果活用促進への出資など
DEIB※宣言に基づく人事	多様性、公正性、包摂性を軸とした構成員の帰属性向上、優秀で多様な人材の確保など

※ Diversity, Equity, Inclusion & Belonging

4つの戦略

［戦略］1 教育・人材育成

真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する。



［戦略］2 研究・価値創造

特定の研究分野において、世界最高水準の成果を獲得できる研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する。



［戦略］3 社会連携・産学連携

地域課題の解決による地域のブランド力の増進や産業競争力向上、大学発ベンチャーの創出や産学協働拠点の形成を通じて、T-PRACTISS※構想を実現する。



［戦略］4 国際展開

ジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）を基軸としたグローカルリーダーの育成と留学生ネットワークの構築により、地域に根差した国際化を実現する。



「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想　－岐阜大学の目指すべき姿－

The future image of Gifu University　- Migration/ Laboratory/ Innovation/Education -

東海国立大学機構連携支援拠点、新たなエネルギー開発、教育を軸とする豊富な人材育成を目指した次世代の大学像

Migration



人材移入・人口定着を
目指した地域共創

産業・まちづくり

社会・産業の課題解決を通じた
国際社会と地域共創への貢献

（取り組み）
エネルギー（地熱、バイオマス等）・新産業創出・雇用創出・スマートシティー・環境課題（カーボンニュートラル、水素・アンモニアの活用等）・イノベーションコモンズ

Laboratory



地域の特性を生かした研究
施設と世界最高の知の拠点

ものづくり・食づくり

世界最高水準の研究の
展開による知の拠点化

（取り組み）
生命科学・航空宇宙・先端材料・生産技術・刃物・金型・気候環境・流域・森林・バイオ・水産・スマート農業

Innovation



創薬シーズの開発・育成拠点
標準治療の創生

医療づくり

地域一体型のライフサイエンス
研究体制の確立

（取り組み）
新規医療技術・創薬シーズ探索、開発、育成・治験・データ解析・トランスレーショナルリサーチセンター（TR）・未病・予防医療、健康長寿データ

Education



Society 5.0に求められる
教育・人材育成

人づくり

国際通用性のある質の
高い教育の実践

（取り組み）
IoT, DX, XRを採用した教育システム・　デジタル人材・異分野融合人材・博士課程支援・ダイバーシティー・人生100年時代　リカレント教育

ミライエ構想を実現するための事業予算獲得実績

- 大学経営改革補助金　【2022～2025】
- 地域の中核大学イノベーション創出環境強化事業　【2022～2023】
- 地域の中核大学の産学融合拠点の整備　【2021～2022】
- 地域活性化人材育成事業（SPARC）　【2022～2027】
- 地方大学・地域産業創生交付金「展開枠」（航空宇宙）　【2023～2026】
- 大学の世界展開力強化事業（インド太平洋地域）　【2022～2026】
- 大学の世界展開力強化事業（グローバル・サウス）　【2025～2029】
- 次世代研究者挑戦的研究プログラム（新SPRING）　【2024～2026】
- 大学・高専機能強化支援事業　【2024～2033】
- 戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業　【2025～2027】

発展し続ける岐阜大学～どうする次の10年

目次

01 東海国立大学機構
ミッション・ビジョンと共発展モデル

02 岐阜大学の組織・ビジョン・戦略
岐阜大学の教育研究組織及び執行部
ミッション・ビジョン・戦略
ぎふのミ・ラ・イ・エ構想

03 法人統合による効果
学生にとってのメリット
連携拠点支援事業

04 岐阜大学の活動実績等
活動実績・受賞歴・基金　外

05 教育改革
入試改革
教養教育改革
組織整備

06 研究力強化の方向性
第4.X世代大学　4th Generation University+
大学の現状と課題及び改革の方向性

07 岐阜大学の役割と
ミッション実現化に向けた構想
キャンパスまるごと共創型社会実装大学構想
岐阜県まるっとキャンパス構想

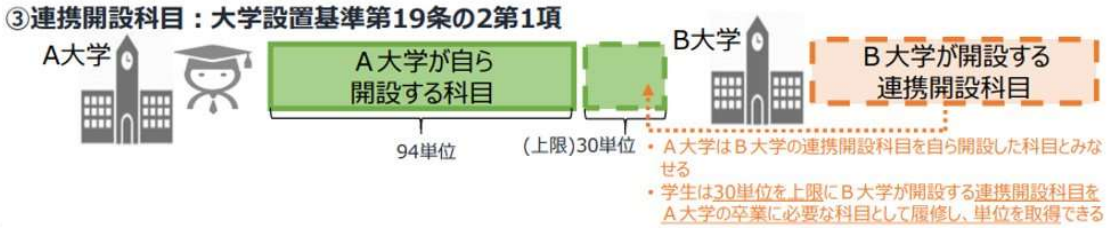
08 国際展開
インド工科大学グワハティ校との交流
日印経済フォーラム

09 地域と共に発展し続ける岐阜大学

法人統合による学生にとってのメリット

連携開設科目による教育の充実

複数大学を設置する法人が一定の要件を満たす場合、教学上の特例により連携開設科目の設置を認められ、両大学の学生は、それぞれの大学の強みのある分野において提供される連携開設科目を履修することで、より充実した教育を受けることが可能。



連携開設科目 ※R６までは全共科目のみ	R５年度	R６年度	R7年度		R8年度	
			全共科目	教育学部専門科目	全共科目	教育学部専門科目
岐阜大学開設科目	9科目	21科目	27科目	13科目	**28科目**	**13科目**
名古屋大学開設科目	18科目	17科目	14科目	4科目	**25科目**	**4科目**

博士課程学生への支援

岐阜大学と名古屋大学が共同申請した、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」に採択され、研究環境及び経済的支援を充実。
東海国立大学機構メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業を展開し、**令和６年度から支援枠を大幅増。**

数理・データサイエンス・AI教育プログラム

データサイエンスの基礎的な知識とスキルの修得を目指す授業を開講。教材の基盤部分は本教育プログラムを先行して実施している名古屋大学が作成し、両大学の学生の特性に合わせてカスタマイズされ教育効果の高いものとなっている。
文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム「リテラシーレベル」及び「応用基礎レベル」に認定済

MDASH Literacy
Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education designated by the Gov of Japan
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度
リテラシーレベル

MDASH Advanced Literacy
Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education, designated by the Gov of Japan
数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度
応用基礎レベル

大学施設の相互利用

両大学に設置された施設の相互利用が可能となり、学生は**双方の図書館を利活用**できるようになった。一方の大学の附属図書館にはない分野の図書を借りることが可能となった。

ウェルネス教育・キャリア教育

学生の健康増進やコミュニケーション力向上、インターンシップの推進や障害学生のキャリア形成等について、オンラインを活用し、**両大学共同で支援活動**を行っている。大学単独では実施することが困難なメニューを多数展開でき、学生の状況に即した適切な学生支援ができることとなった。

東海国立大学機構連携拠点支援事業（2026年4月現在：7拠点）

両大学の連携から生まれる**シナジー効果を最大限発揮する**ために、特定の領域において**世界と伍する研究拠点または全国トップレベルの研究拠点を目指す拠点**と、T-PRACTISSに大きく貢献することが期待できる拠点を「連携拠点支援事業」として認定し、運営面、資金面から強力に支援しています

糖鎖生命コア研究拠点（iGCORE） 2020年度事業開始

■生命の本質を追究する国際研究を展開

糖 鎖

糖鎖の機能解明を通じて新たな生命原理の創出を目指し、個別予防や未病検知など医療革新へ展開する研究拠点。糖鎖化学、イメージング、糖鎖生物学・医学の研究者が結集し、分野横断的な統合研究を推進するとともに、J-GlycoNetの中核として国内外連携を強化し、ヒト糖鎖情報基盤（HGA）の構築を進める。

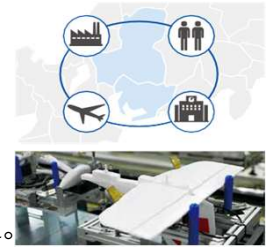


航空宇宙研究教育拠点（AREH） 2020年度事業開始

■東海地域で革新的な航空機産業技術と人材を創出

航 空

日本の航空宇宙生産の約半数が集積する東海地域で、産学官連携によりクラスター形成と国際競争力を担う人材を育成する。設計と生産の融合や他産業技術の導入で先進技術開発を推進し、空飛ぶモビリティの社会実装にも貢献。2025年3月にはNEDO支援のもとCSAPが発足。



One Medicine 創薬シーズ開発・育成研究教育拠点（COMIT） 2023年度事業開始

■世界の創薬研究に変革をもたらす

創 薬

One Medicineの視点でヒトと動物の疾病を比較し、両者に有効な創薬シーズ研究を推進する。医・獣医・薬・工の連携により標的同定から非臨床・治験まで一体的な体制を構築し、「Sharing Medicine」の創出を目指すとともに、人材育成にも貢献する。



健康医療ライフデザイン統合研究教育拠点（C-REX） 2020年度事業開始

■地域社会とともに健康医療事業を推進

健康医療

信頼できる健康医療データ基盤を構築し、「いのち・生活・人生」の視点から研究教育を統合的に推進。患者や介護・福祉対象者、健常者に対しWell-being社会の実現を目指し、データ駆動型事業を展開



低温プラズマ総合科学研究拠点（iPlasma Core） 2023年度事業開始

■世界最高峰の研究で産業の持続的発展に貢献

プラズマ

低温プラズマは半導体製造の約80%を担う基盤技術である。両大学の共同研究により、半導体や医療、環境、農業分野でのイノベーション創出を目指し、技術標準化やデジタル基盤整備を通じて持続的発展に貢献する。

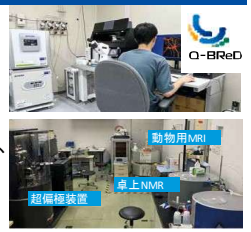


量子フロンティア産業創出拠点（Q-BReD） 2024年度事業開始

■世界に誇る量子技術イノベーション拠点

量 子

名古屋大学の化学分野と岐阜大学の超偏極MRI研究を連携し、量子技術の社会実装と医療応用を推進する拠点。量子状態制御による産業・医療への応用を目指し、先導的技術の創出を図る。BRiDGEやムーンショット事業の下で研究を推進。



レジリエント・バイオ地域モデル拠点 2026年度事業開始

■気候変動下における環境・社会課題の解決を目指す

アグリ

森林・農業・水資源を基盤とする地域の生物資源循環を軸に、気候変動下における環境・社会課題の解決を目指す、両大学を中核とした連携拠点。地域実装と人材育成を通じて、レジリエントな地域モデルの構築を進めます。



2026年度　岐阜大学の実績（10月末時点）

※赤：補助金等採択事業　青：組織設置等　緑：名古屋大学との連携

1.教育・人材育成

▽次世代地域リーダー育成プログラムの学生がNEXCO中日本から感謝状を贈呈（4月）



▽学生チームが「第18回学生金型グランプリプレス用金型部門」で金賞などを受賞（4月）

▽岐大2チームがTongaliビジネスプランコンテスト2026で入賞

▽鳥取大学と共同で「共同獣医学部」の設置構想を発表（7月）

▽岐阜大学・三重大学が教育課題解決に向けて「一般社団法人教育アライアンス三岐」を設立



▽走高跳・赤松諒一選手を応援するパブリックビューイング（アジア大会）を開催（9月）

2.研究価値創造

▽アンモニア・水素利用ゼロカーボンエネルギー実証拠点竣工式を開催（4月）



▽健康医療ライフデザイン統合研究教育拠点（C-REX）が養老町と「養老健幸プロジェクト」に向けた共同研究契約を締結（9月）

▽創発的研究支援事業における2026年度新規研究課題に3名採択（工）小島准教授/（応生）冨安助教/（高研）東特任助教

3．社会連携・産学連携

▽地域応援型投信「ノブナガファンド」による寄附受領（5月）

▽株式会社ファミリーと「中濃・東濃地域における人材育成と地域づくり・産業振興の推進に向けた事業の覚書」を締結



▽岐阜市長と愛知県あま市長が社会教育士養成課程講義の学生企画を視察（7月）

▽株式会社十六FGと「健康経営およびウェルビーイングの向上に関する包括連携協定」締結（8月）

▽ぎふしんSDGs私募債による寄附金贈呈式を開催（8月）

▽第2回スペースビジネスシンポジウム in 岐阜に参加（9月）

4．国際展開

▽南フロリダ大学（USF）の学生との交流会を実施（5月）

▽ノースカロライナ州立大学執行副学長らが表敬訪問（5月）

▽吉田学長が日印経済フォーラムに出席（7月）

▽岐阜地域留学生交流推進協議会総会開催（7月）

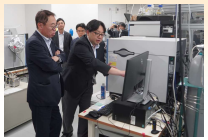
▽駐日バングラデシュ人民共和国特命全権大使が岐阜大学を訪問

▽「岐阜大学発ベンチャー×留学生 交流会」開催



5．大学運営

▽文部科学省 先﨑大臣官房審議官（高等教育局担当）が岐阜大学を視察（4月）



▽文部科学省 増子事務次官が岐阜大学を視察（6月）

▽応用生物科学部101番多目的ホールの愛称がネーミングライツにより「岐阜造園ホール」に決定（10月）



岐阜大学教職員・学生等における令和７年度以降の主な受賞歴①

教職員等



令和7年度 消費者庁消費者支援功労者表彰

大藪 千穂 教授　ベスト消費者サポーター章



Global Leadership Award

山本 眞由美 教授　南フロリダ大学より授与



MIS Championship 2026 世界一　2連覇

畑中 勇治 臨床講師 外科技術競技大会 優勝



第20回 わかしゃち奨励賞 愛知県若手研究者イノベーション創出奨励事業

佐野　栄俊 准教授　基礎科学研究部門優秀賞

第76回 岐阜新聞大賞

神原 信志 教授　岐阜新聞大賞（学術部門）



2026年日本塑性加工学会精密塑性加工国際学術賞

王　志剛 教授

令和7年度 春の叙勲　瑞宝中綬章（教育研究功労）

馬路 泰藏　名誉教授　安東　俊六　名誉教授

同　瑞宝単光章（看護業務功労）

伊藤 友美　元副看護部長

令和7年度 秋の叙勲　瑞宝中綬章（教育研究功労）

大橋 英雄　名誉教授

学生・課外活動等





Tongaliビジネスプランコンテスト2025

２つの学生チームが各賞（海外チャレンジ賞、OKB賞チャレンジ賞/右上がり賞、なごのキャンパス賞）を受賞



iGEM 2025 Grand Jamboreeで金賞受賞

「iGEM Gifu」が長浜バイオ大学と合同で受賞

第77回西日本医科学生総合体育大会

医学部のサークル団体が総合優勝

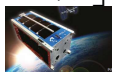


CVG2025日本MITベンチャーフォーラム賞

応生4年、起業部の杉本稜太さん受賞

STARTUP DRAGON-GATE 2026にて「優秀賞」「FAN投票賞」を受賞

工学、企業部中川さん(部)チーム「ファンシバル」





超小型人工衛星「らいちょう」宇宙へ

県内高校生が制作した「らいちょう」をISSから衛星軌道に放出

赤松諒一選手が東京2025世界陸上走高跳で8位入賞
第20回アジア競技大会（2026）で7位入賞

男子走高跳で、赤松諒一選手（教育学研究科修了、医学系研究科研究生）が世界陸上で日本人の最高成績となる8位、アジア大会で7位に入賞



04 岐阜大学の活動実績等

岐阜大学教職員・学生等における令和７年度以降の主な受賞歴②

MAKE NEW STANDARDS. 東海国立大学機構 | 岐阜大学

International Conference Presentation (Oral Presentation)

WCES 21st World Congress of Endoscopic Surgery
11th Asia-Pacific Congress of ELSA
4 ~ 8 Nov 2025 • SUNTEC SINGAPORE
REVOLUTIONISING ENDO-LAP SURGERY

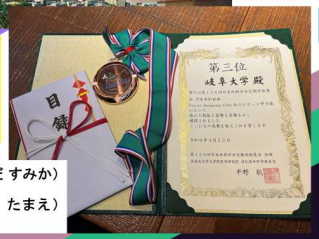




窓口担当：佐藤悠太
JAPAN SURGICAL SOCIETY
Future Surgeons Club
★ 古澤 七都 （ふるさわ なつ） 消化器外科志望
★ 吉田 正裕（よしだ まさひろ） 心臓血管外科志望
★ 石原 楓 （いしはら かえで） 乳腺外科志望



外科学会2026 @札幌 医学部6年生 5名 参加しました！



岐阜大学チーム 第3位入賞 !!



★土田 澄香 （つちだ すみか） 消化器外科志望
★泉 玉絵（いずみ たまえ） 乳腺外科志望

Presentation Highlights

- Minimally Invasive Surgery (MIS)
- Laparoscopic Colorectal Surgery
- Advanced Gastrointestinal Surgical Techniques
- International Collaboration and Education





The 1st MIS Championship

Selected Team Members (Selected by JSES 2024)	Competition Events	Final Match (Japan vs Uzbekistan)	Team Support
			
Dr. Chudan (GI Surgery) Dr. Ishimoto (GI Surgery) Dr. Yoshikawa (OB/GYN)	① TAPP Model Relay ② Sac Dissection ③ Mesh Fixation ④ Suturing and Peritoneal Closure		Prof. Yutaka Inaba Faculty Mentors and Supporters from Affiliated Institutions

世界一

Championship Trophy & M



MIS CHAMPIONSHIP 2025 CHAMPION!!!



Our achievement reflects the strength of young surgical talent at Gifu University, advanced surgical education, and our international competitiveness in minimally invasive surgery.

GIFU UNIVERSITY

04 岐阜大学の活動実績等

アントレプレナーシップ教育に関する取り組み

未来にまっすぐ岐阜大の企業プログラム

アントレプレナーシップ教育の推進



岐阜大学は、学術研究・産学官連携推進本部の機能を強化し、**岐阜大学発スタートアップの支援体制を整備**してきました。具体的にはスタートアップ創出支援・起業家育成のための**専任支援人材の配置**や、研究成果から生まれる**起業シーズの発掘・育成**と**経営者とのマッチング促進**、さらには授業や起業部との連携を高めた**アントレプレナーシップ教育の推進**、**起業ファンド申請支援**などを行っています。

岐阜大学公認起業部の活躍

起業部では、学生が社会課題の解決に向けた事業づくりに挑戦。起業家との交流や勉強会でアイデアを磨き、**ビジネスコンテストでの受賞**や**会社設立を実現**しています。農産品の海外輸出やアート分野でも学生が活躍中。

東海地域の起業家育成プロジェクト「Tongaliプログラム」に参画

岐阜大学は、Tongaliプログラムに幹事校として積極的に参画し、**アイデアピッチコンテスト、ビジネスプランコンテストなどにおいて受賞**する優秀なチームを数多く輩出しています。



R8.6【学生受賞！】全国規模『**Tongaliビジネスプランコンテスト**』にて本学**２チームが受賞**！本学は**5年連続で複数チーム受賞という快挙**を達成

R8.2【学生受賞！】『**第22回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会**』にて杉本稜太さん（応用生物科学部）が「**日本MITベンチャーフォーラム賞」を受賞**！

R8.2【優秀賞受賞！】中川幹太さん(工学部)チーム「ファンシバル」が『**STARTUP DRAGON-GATE 2026**』にて**「優秀賞」「FAN投票賞」を受賞**しました！









このほか、新聞、TV、ラジオ、イベントなどで、起業部で活動する学生の活躍が多数紹介されています。

大学発ベンチャー支援に関する取り組み

大学発認定ベンチャー制度
岐阜大学発ベンチャーの創出・成長支援

岐阜大学発ベンチャー認定ロゴ

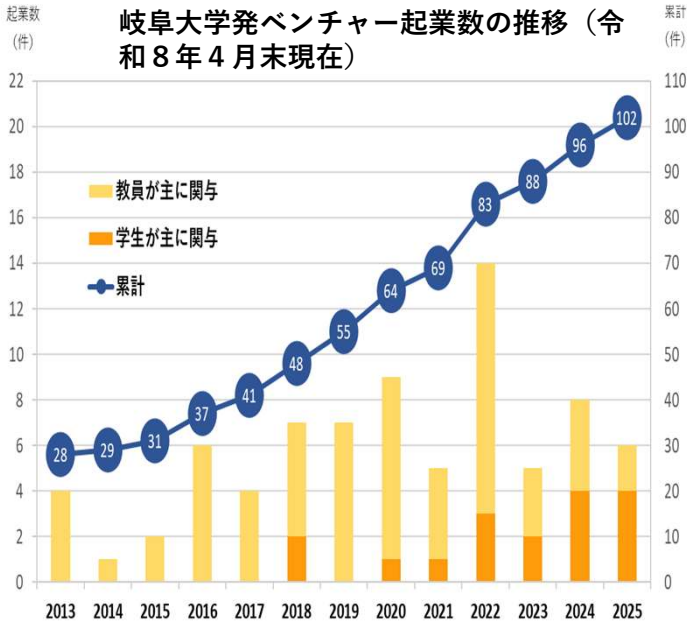
■ **大学発認定ベンチャー累計14社（R8.10現在）**

本学で得られた研究成果等を活用した新たな技術やビジネス手法をもとに起業した企業等を「岐阜大学発ベンチャー」として認定する制度を制定

株式会社フォトニック・エッジ、株式会社Lukos、GRC株式会社、株式会社GF・Mille、株式会社e-NA Biotec、株式会社ゼノバイオティック、FiberCraze株式会社、サグリ株式会社、株式会社GIFU EXOSOME、株式会社 Gifu BioPharma、株式会社OhGooD、株式会社 Vascular Works、株式会社Arrowsmith、 Umai Japan株式会社

岐阜大学関連ベンチャー企業数の推移

岐阜大学発ベンチャー起業数の推移（令和８年４月末現在）



起業数は、経済産業省の大学発ベンチャーの定義に基づき独自に調査した件数（廃業・解散企業含む）

大学等別の大学発ベンチャー数

順位	大学名	件数
1	東京大学	595
2	京都大学	503
3	慶應義塾大学	473
4	大阪大学	342
5	筑波大学	301
6	名古屋大学	267
7	東北大学	260
8	東京理科大学	257
9	東京科学大学	209
10	近畿大学	196
11	立命館大学	193
12	早稲田大学	187
13	神戸大学	177
14	北海道大学	171
15	関西大学	148
16	九州大学	141
17	デジタルハリウッド大学	121
18	情報経営イノベーション専門職大学	120
19	岐阜大学	95
20	千葉大学	89

大学等別の研究成果ベンチャー、共同研究ベンチャー

研究成果ベンチャー		
大学名	2025年度	
	企業数	順位
東京大学	265	1
大阪大学	218	2
京都大学	194	3
慶應義塾大学	162	4
名古屋大学	162	4
東北大学	150	6
東京科学大学	125	7
筑波大学	115	8
九州大学	83	9
神戸大学	83	9
東京理科大学	67	11
北海道大学	62	12
早稲田大学	61	13
岡山大学	46	14
千葉大学	39	15
立命館大学	35	16
岐阜大学	35	16
東京農工大学	33	18
鹿児島大学	29	19

共同研究ベンチャー		
大学名	2025年度	
	企業数	順位
京都大学	161	1
名古屋大学	87	2
大阪大学	58	3
東北大学	55	4
東京理科大学	54	5
神戸大学	48	6
近畿大学	46	7
東京大学	45	8
岐阜大学	45	8
慶應義塾大学	42	10
千葉大学	32	11
北海道大学	25	12
龍谷大学	21	13
三重大学	18	14
九州工業大学	16	15
東京科学大学	13	16
筑波大学	11	17
九州大学	11	17
立命館大学	10	19
早稲田大学	9	20

経済産業省令和7年産業技術調査（大学発ベンチャー実態等調査）報告書より抜粋

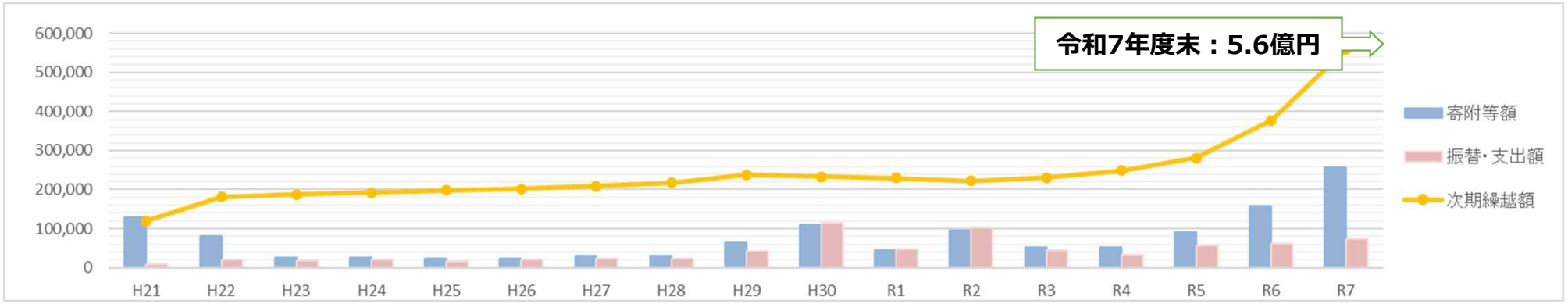
（1）**研究成果ベンチャー**■大学の研究成果に基づく特許や新たな技術・ビジネス手法を事業化する目的で新規に設立されたベンチャー
（2）**共同研究ベンチャー**■創業者の持つ技術やノウハウを事業化するために、設立5年以内に大学と共同研究等を行ったベンチャー

（参考）岐阜大学基金収支状況等について（平成21年度～令和7年度）

1．寄附等額、支出額、次期繰越額

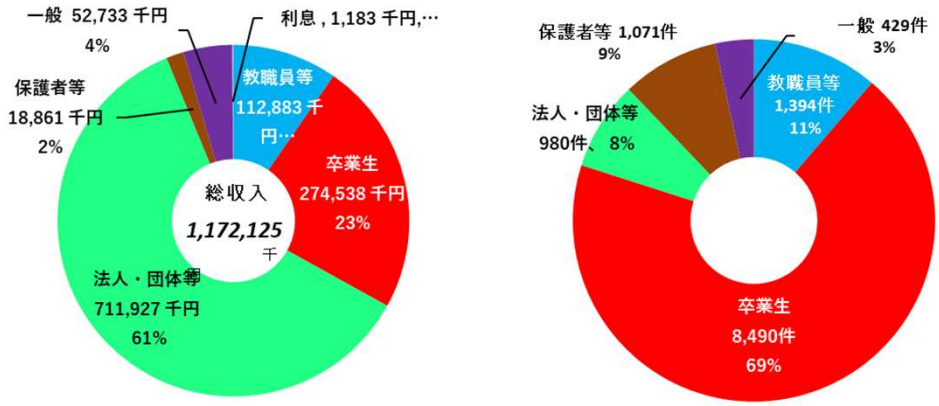
※ 岐阜大学基金は、収入額（寄附等額）の一部を直接、各種支援事業に支出しています。
そのため、収入額と支出額の差額（次期繰越額）が基金として造成されています。

（単位：千円）

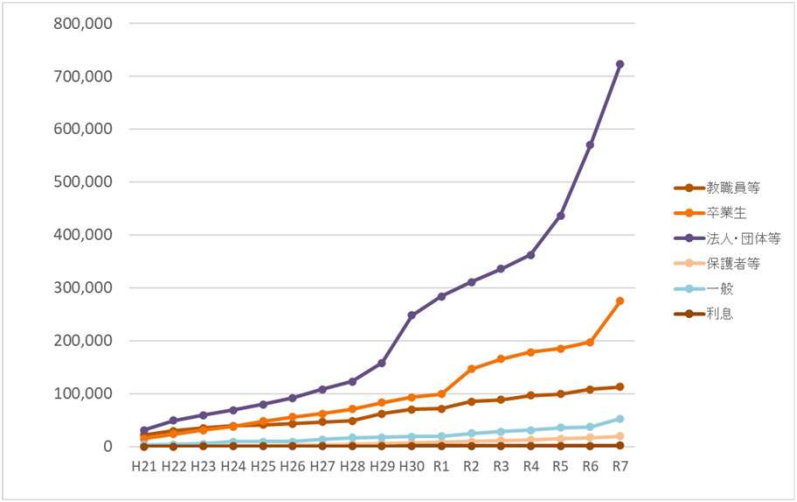


2．寄附者等別内訳（平成21年度～令和7年度までの累計）

※ 前事業からの振替・寄附分104,748千円を除く



（単位：千円）



エンダウメント型大学経営の推進（エンダウメント型大学経営、寄附、同窓生）

岐阜大学校友会（卒業生、在学生、後援会員及び教職員等を構成員とした大学支援組織）を基盤とした寄附獲得の強化

1 岐阜大学経営者の会



「岐阜大学経営者の会」を発足

- 企業の役員や個人事業主等で岐阜大学出身の者を会員とした「岐阜大学経営者の会」を発足（R7年10月）
- R8年7月末時点で123名が入会
- 毎月の役員会に加え、会員交流イベント（AI活用講座）や大学見学会などを5回開催
- 入学式やホームカミングデーで会員が講演

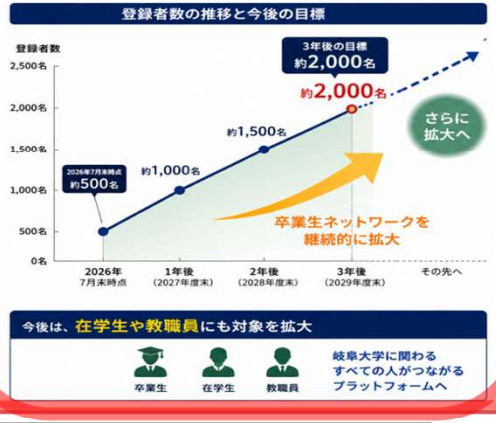
会員からの寄附受入

- 会員から累計1億円の個人寄附を受け入れ、リスク運用の原資として活用。R9年度から運用益の一部を活用した研究助成事業を開始
- その他、法人として5年間の冠奨学金の寄附を受け入れるなど、大学の応援団としての関係を構築

今後の活用　会員拡大、本会を基盤とした継続的な関係構築、寄附・共同研究につなげる

2 アラムナイプラットフォーム

「G-Link＋」構築



自治体との連携（寄附チャネルの多様化）

3 ふるさと納税型CF

美濃加茂市とのふるさと納税型CF



岐阜大学美濃加茂農場の牛の飼育環境と放牧施設改善を目的として、美濃加茂市と連携したふるさと納税型クラウドファンディングを実施（R8年4月～6月）。CF収入で牧柵や屋根付き餌場設置など放牧地を整備。

4 資金運用体制の構築と資金運用

使途を特定せず寄附を受け入れる「大学経営自律化促進事業」（大学基金）をR7年度から開始（R7年度末で7千万円）

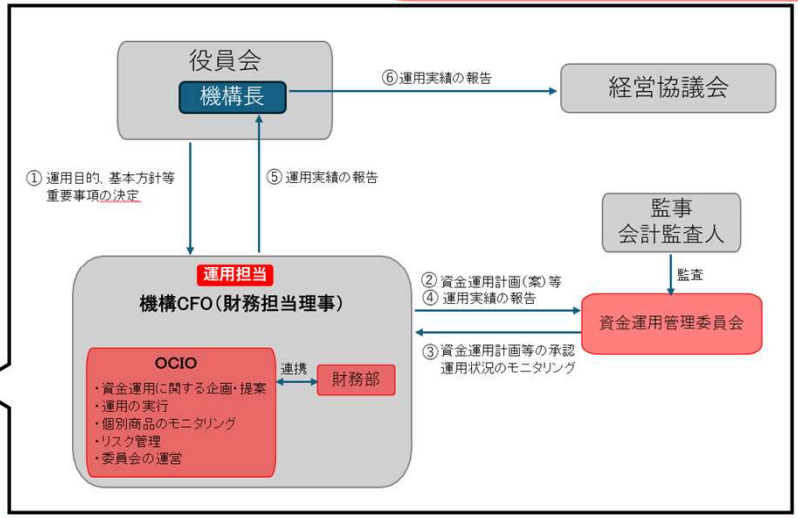
＋

償還期限を迎えた金融商品から生ずる余裕金発生（R7年度末で7億円）

↓

東海国立大学機構としてリスク運用（運用率6%目標）

R6年度には、東海国立大学機構にCFOを置き、資金運用体制強化のためOutsourced Chief Investment Officer（OCIO:アウトソースドCIO）を導入
両大学がそれぞれで運用していた余裕金を一本化して、ガバナンスを効かせながらリスク運用を推進することで基金の造成を強化する体制を構築（東海国立大学機構統合報告書2025）



R7年度	リスク運用額（R7年度末時点）	7.7億円
	機構のリスク運用率	8.0%
R22年度	リスク運用累計額目標	60億円
	リスク運用益目標	3.5億円

【参考】岐阜大学（東海機構）の広報誌・刊行物の紹介

岐阜大学　大学概要2026

「岐阜大学概要2026」は、本学の理念・目標や教育・研究、社会連携、国際交流の取り組みを紹介する冊子です。
学生数や進路状況、組織・予算などの基礎データも掲載しています。




https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/gaiyo.html



岐阜大学の広報誌　岐大のいぶき

「岐大のいぶき」は、岐阜大学の広報誌として平成13年2月に創刊し、教育・研究活動に関する情報を広く社会に発信し続けています。最新刊51号では、がん医療や夏山診療所を特集し、刃物学の授業や大学のトピックスも紹介しています。



https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/ibuki.html



東海国立大学機構　統合報告書 2025

統合報告書は、経営上のリスク・機会や社会課題への取り組みを経営戦略と結びつけ、東海国立大学機構の現在の価値と将来の価値創造を伝えます。一般投資家との対話を深めるため、国際統合報告フレームワーク（IIRC）に準拠しています。





https://www.thers.ac.jp/about/publications/tougou/index.html

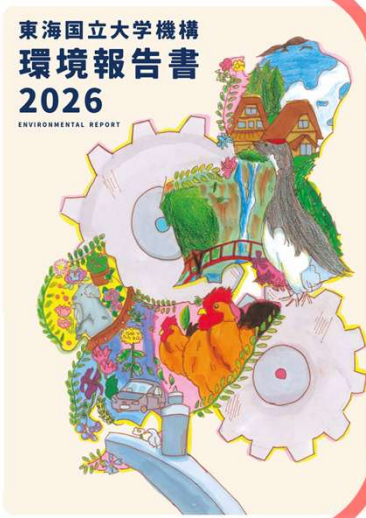


東海国立大学機構　環境報告書 2026

岐阜大学・名古屋大学の環境への取組を紹介する「環境報告書2026」を発行しました。持続可能なものづくりや脱炭素に向けた取り組み、教員・学生のインタビュー等を掲載し、東海機構及び岐阜大学HPで公開しています。




https://www1.gifu-u.ac.jp/~kankyo/houkokusyo.html



発展し続ける岐阜大学～どうする次の10年

目次

01 東海国立大学機構
ミッション・ビジョンと共発展モデル

02 岐阜大学の組織・ビジョン・戦略
岐阜大学の教育研究組織及び執行部
ミッション・ビジョン・戦略
ぎふのミ・ラ・イ・エ構想

03 法人統合による効果
学生にとってのメリット
連携拠点支援事業

04 岐阜大学の活動実績等
活動実績・受賞歴・基金　外

05 教育改革
入試改革
教養教育改革
組織整備

06 研究力強化の方向性
第4.X世代大学　4th Generation University+
大学の現状と課題及び改革の方向性

07 岐阜大学の役割と
ミッション実現化に向けた構想
キャンパスまるごと共創型社会実装大学構想
岐阜県まるっとキャンパス構想

08 国際展開
インド工科大学グワハティ校との交流
日印経済フォーラム

09 地域と共に発展し続ける岐阜大学

入試改革

岐阜大学を地域活性化の中核拠点（地域中核大学）として実現するための入学者選抜と今後の予定

【若者の夢を実現する岐阜大学 Mission Vision】・【「ぎふのミ・ラ・イ・エ（Migration、Laboratory、Innovation、Education）」構想】の実現にむけて

- ◆ 地域中核大学の役割として、地域社会で**活躍できる若者人材**を募集し、育成することが重要なテーマ
- ◆ 地域の中・高校生へ「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想等の情報発信・各研究機関等が実施する行事やイベントなどの案内・**岐阜県内の高校等との連携事業の推進**
- ◆ 地域活性化を担う若者が岐阜大学へ入学することができる入試改革を検討

教育・人材育成
（勇気をもってともに未来を創る人材の育成）

真に学生本位で，国際通用性のある質の高い教育により，社会で活躍する人材を養成する。

(1)未来社会 に必要な基盤教育の充実
(2)情報デジタル基盤を活用した学修環境整備と学生支援の充実
(3)世界に通じる研究者や高度専門職業人養成のための大学院教育の充実
(4)地域ニーズに応じた地域活性化人材育成とリカレント教育の推進
(5)知の生産・価値創造を先導する教育組織への不断の見直し

【直近の主な入試改革】

- ➢ **工学部電気電子・情報工学科情報コースの定員を20名増員**
  - ■岐阜県の産業の変革を情報技術により先導する人材の育成
  - ■学科を超えて情報系科目を強化し、情報系人材の裾野を拡大
- ➢ **工学部学校推薦型選抜Ⅰ（共通テストを課さない）の実施**
  - ■宇宙人材の育成を目的、県内高校生が主なターゲット
    ※工業に関する学科対象

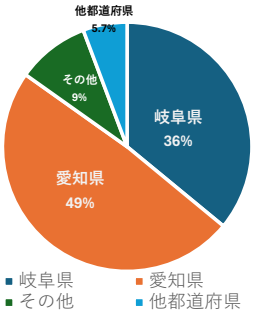
【今後の予定（R9年度実施入試）】

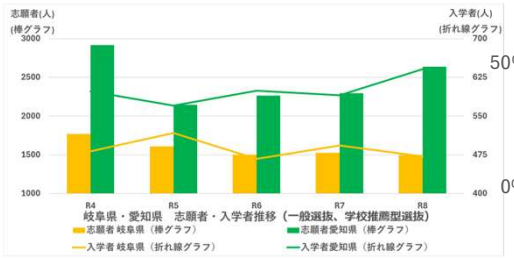
- ➢ **教育学部総合型選抜、学校推薦型選抜Ⅰの実施**
  - ■年内入試の導入により岐阜県内で活躍したい高校生を早期に確保
- ➢ **医学部看護学科学校推薦型選抜Ⅰの定員を15名増員**
  - ■年内入試の拡大により岐阜県内で活躍したい高校生を早期に確保
- ➢ **工学部一般選抜（後期日程）の個別学力検査の変更**
  - ■理系科目に関心を持つ多様な受験生の確保

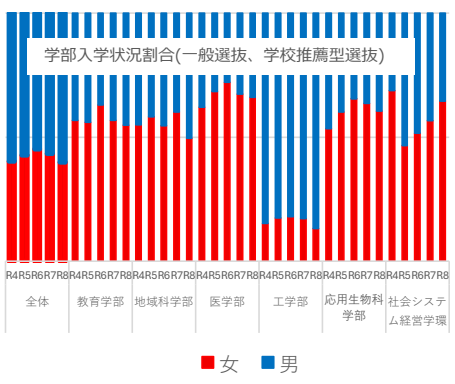
「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想 －岐阜大学の目指すべき姿－

Migration	Laboratory	Innovation	Education
人材移入・人口定着を目指した地域共創（産業・まちづくり）	地域の特性を生かした研究施設と世界最高の知の拠点（ものづくり・食づくり）	創薬シーズの開発・育成拠点 標準治療の創生（医療づくり）	Society 5.0に求められる教育・人材育成（人づくり）

出身高校等の所在地別入学状況割合







教養教育改革　令和9年度実施

現状の課題

岐阜大学の教養教育における現状の課題



- 受講機会：教室の収容定員により、多くの科目で抽選が発生している
- 複雑な仕組み：多様で多彩な科目であるが、複雑な科目区分となっている

【背景】中教審「知の総和」答申が示す「高等教育が目指す姿」

学修者本位の教育の更なる推進が必要。

「知の総和」の向上に向け、**教育研究の質を高め、適切な規模の高等教育機会を供給**し、**地理的・社会経済的なアクセスを確保**することで、高等教育の機会均等を実現する。

改革の目的

全ての学生が、幅広い分野にわたる教養教育を通して、**生涯にわたり自律的に学び続けるための基盤的教養**を身に付ける

- 全学生が共通に必要な知識・能力を育成
- 抽選や収容制約に左右されない学修機会を確保
- オンデマンドと対面を組み合わせ、基礎の定着と対話・探究による深化を両立

改革の注目点



A オンデマンドによるコア科目

コア科目の導入（10科目）

日本語コミュニケーション	文化と言語
データ科学基礎	哲学・思想入門
未来社会とSDGs	健康教養
環境問題とSDGs	現代社会と社会科学
ライフマネジメント	地域で生きる

B 科目群

4つの科目群に再編

初年次セミナー、英語科目、コア科目、一般教養科目

C 単位・開講時期

単位数、開講時期の変更

1科目：1単位（8回） 各学期を前半、後半に分けて開講

D 質の保証

教養の質保証を担う室を設置

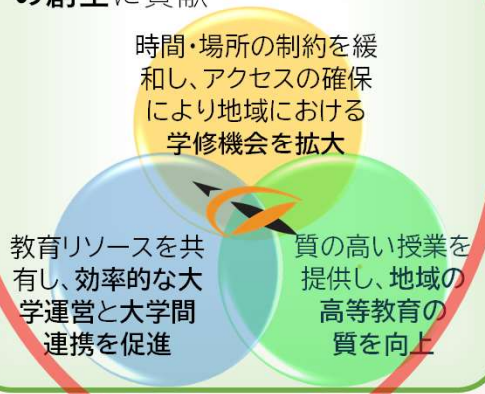
「教養教育評価改善室」「教養教育ICT支援室」



波及効果

将来展開

教育コンテンツを**高等教育機関等へ展開**し、**地域で必要とされる人材の育成**と**持続的地域社会の創生**に貢献



成　果

改革がもたらす価値

- 公平な学修機会
- 教養の質的充実
- 持続可能な教育の提供

- **基盤的教養の保証**　幅広い分野にわたる教養教育を全学生に提供・抽選や収容制約に左右されない学修機会の実現
- **自律的学習力の育成**　自律的に学び続ける力の育成・オンデマンドを活用した主体的学修の定着
- **持続可能な教育体制**　教養教育の質保証・改善サイクルの確立 / 限られた教育資源を有効活用した運営

三重大学・岐阜大学教育学部　連携教職課程設置構想

令和10年度 三重大学と連携教職課程を開設予定

岐阜大学・三重大学が教育課題解決に向けて「一般社団法人 教育アライアンス三岐」を設立

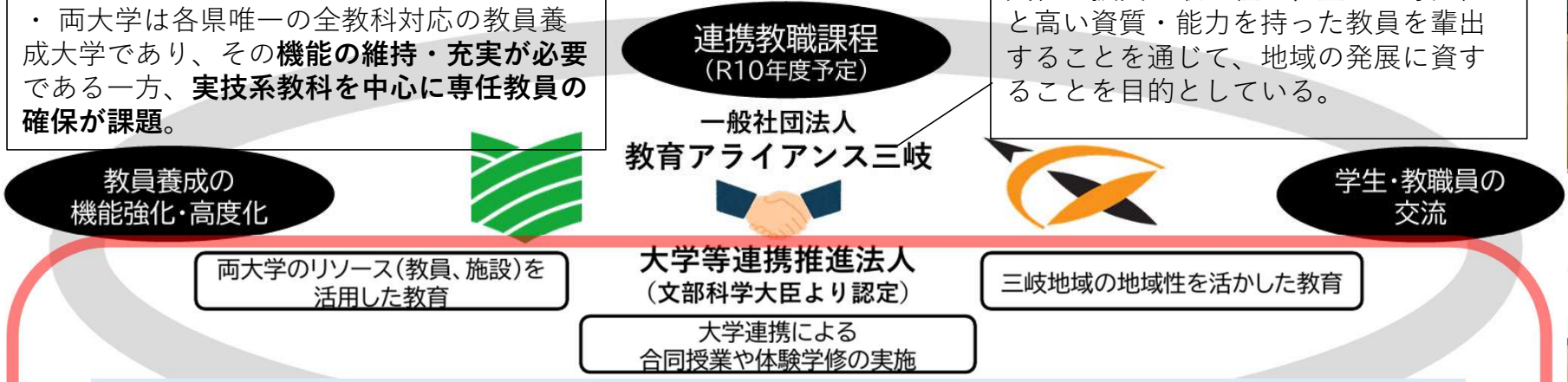
岐阜大学（東海国立大学機構）と三重大学は、**「一般社団法人教育アライアンス三岐」（代表理事：伊藤正明三重大学長）を設立**。三重大学教育学部及び岐阜大学教育学部における**学生・教職員間の交流**や**「連携教職課程（令和10年度予定）」 等の事業を展開**するため、令和8年度中に**「大学等連携推進法人」の認定**を目指します。

法人設置の背景等

・ 三重・岐阜**両県の教員養成系国立大学が連携**し、**教員養成機能を強化**するとともに、**共通の地域課題の解決**を牽引する必要がある。
・ 両大学は各県唯一の全教科対応の教員養成大学であり、その**機能の維持・充実が必要**である一方、**実技系教科を中心に専任教員の確保が課題**。

法人の目的

三重大学教育学部と岐阜大学教育学部が連携して教員養成、教員研修、地域文化の振興に取り組み、豊かな専門性と高い資質・能力を持った教員を輩出することを通じて、地域の発展に資することを目的としている。



・ 大学等連携推進法人の認定及び連携教職課程の設置により、両大学の教職課程の充実が可能となる。
・ 学生・教員の交流を通じた教育実践力・研究力の向上が可能となる。
・ 広域的な分業・協働体制による教員養成の効率化・高度化が可能となる。

「一般社団法人 教育アライアンス三岐」設立　記者会見開催（R8.7.28）



記者会見の様子（吉田学長）



左から、宮岡三重大学教育学部長、松尾機構長、伊藤三重大学長、吉田学長、坂本教育学部長

共同獣医学部設置構想

令和10年度 鳥取大学とともに共同獣医学部を設置予定

世界で活躍できる獣医師の育成に取り組むことで、地域社会と国際社会の発展に貢献

設置構想中

共同獣医学部は、平成25年に開設した共同獣医学科、平成31年に設置した共同獣医学研究科における**10年以上にわたる連携実績を基盤として構想**されたもので、**学部から大学院まで一貫した教育・研究体制を構築**し、人・動物・環境の健康を一体的に捉える「One Health」**の理念**の下、**高度な専門知識と実践力、国際的な視野、高い倫理観を備えた獣医師の育成**を目指します。

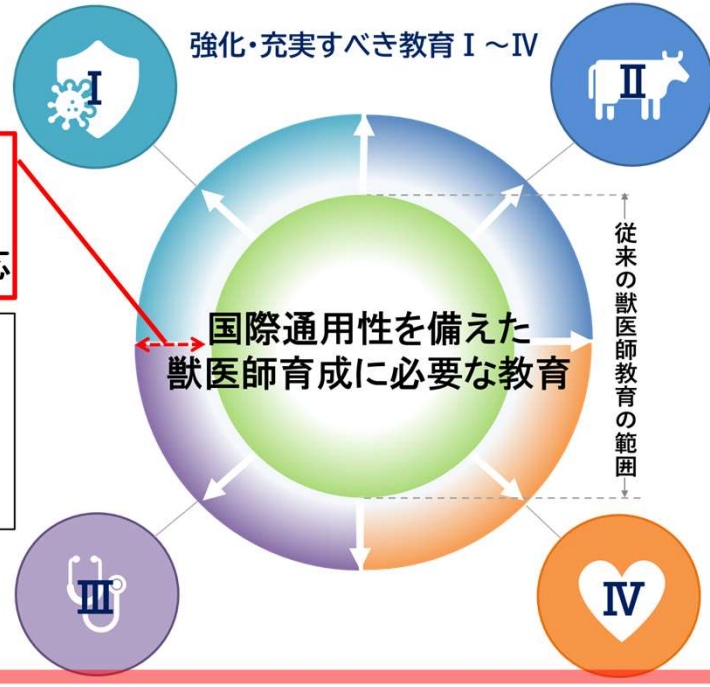
単なる知識の習得から、「実践的・応用的能力」の育成へとカリキュラムを高度化します。

感染症対策関連教育

WOAH；Day-1 Competencies（国際基準の実践力）への対応

OIE（現WOAH）の提言等に対応した**国際通用性のある獣医学教育**を、欧米諸国と**対等な立場で主体的に意思決定**できる学部組織で展開します。

参加型総合臨床実習



畜産・産業動物関連教育

【養成する人材像】

両大学の理念の下、**国際社会をリードする教養と高い倫理観**を備え、獣医学の**高度で実践的な知識・技術**を修得し、**動物の健康と人と動物の共生を支える**とともに、科学的・論理的思考に基づき**現代社会の課題を解決**できる、**国際的視野と行動力、豊かな社会性・人間力**を有する獣医師を養成する。

動物福祉・愛護動物教育

鳥取大学と共同で「共同獣医学部」の設置構想を記者発表（R8.7.30）



記者会見の様子（吉田学長）



左から、杉山副学長、吉田学長、原田鳥取大学長、三木鳥取大理事

発展し続ける岐阜大学～どうする次の10年

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立大学機構
岐阜大学

目次

01 東海国立大学機構
ミッション・ビジョンと共発展モデル

02 岐阜大学の組織・ビジョン・戦略
岐阜大学の教育研究組織及び執行部
ミッション・ビジョン・戦略
ぎふのミ・ラ・イ・エ構想

03 法人統合による効果
学生にとってのメリット
連携拠点支援事業

04 岐阜大学の活動実績等
活動実績・受賞歴・基金　外

05 教育改革
入試改革
教養教育改革
組織整備

06 研究力強化の方向性
第4.X世代大学　4th Generation University+
大学の現状と課題及び改革の方向性

07 岐阜大学の役割と
ミッション実現化に向けた構想
キャンパスまるごと共創型社会実装大学構想
岐阜県まるっとキャンパス構想

08 国際展開
インド工科大学グワハティ校との交流
日印経済フォーラム

09 地域と共に発展し続ける岐阜大学

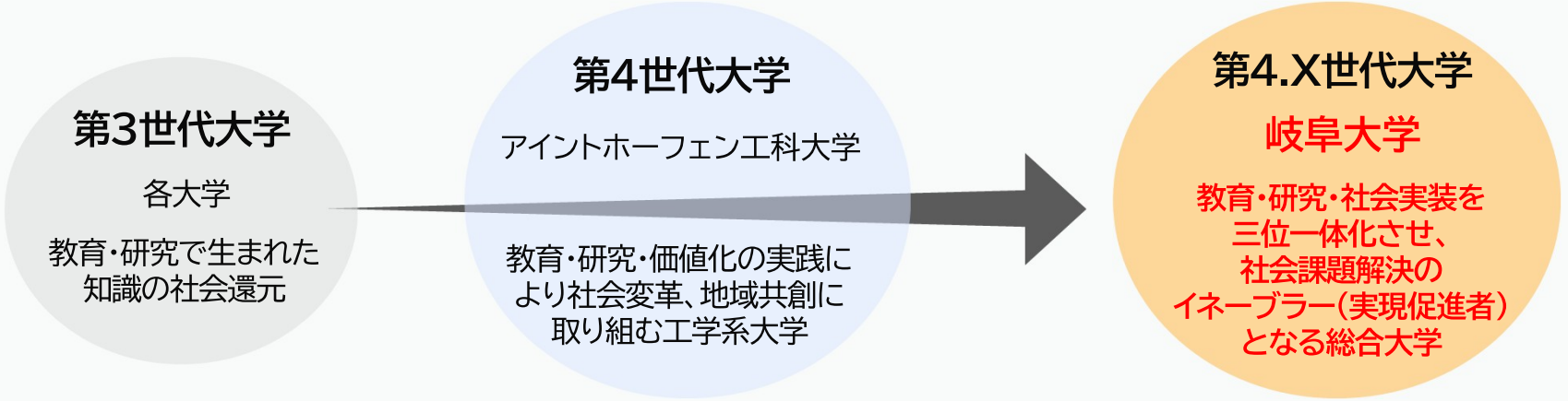
高等教育の世界的な潮流と岐阜大学の目指す姿

第4世代大学(4th Generation University)

- 学術論文誌出版社Elsevier社先導の下で提唱されている新しい大学のモデル
- 優れた教育・研究の知を、スタートアップ等で社会に一方向に還元する大学から、知識移転を超えて、地域イノベーションエコシステムの中核として、複数のステークホルダーと協調的に知識創造を行う大学の方向性を指す

	第1世代大学	第2世代大学	第3世代大学	第4世代大学
目的	教育(学士教育)	教育と研究	教育・研究で生まれた知識の社会還元	ミッション主導の教育・研究・価値化の実践
役割	真理の探究、教養人の育成	科学知の創出、研究者の育成	技術移転、産業創出	社会変革、地域共創
年代	～19世紀中期	19世紀後期	1980年代～現在	2020年代～
代表例	中世の法学中心・社会エリート育成のための大学	研究大学(フンボルト大学)	スタンフォード大学	アイントホーフェン工科大学(オランダ)
キーワード	伝統的学問・高等教育	基礎研究、応用研究、国家発展と科学研究	産業パートナーシップ、グローバル志向	エコシステム志向

(※Elsevier社報告書及び文部科学省大学研究力強化部会資料を基に岐阜大学作成)



【参考】共創型社会実装大学構想におけるベンチマーク機関の実績

ベンチマーク機関

○英国シェフィールド大学

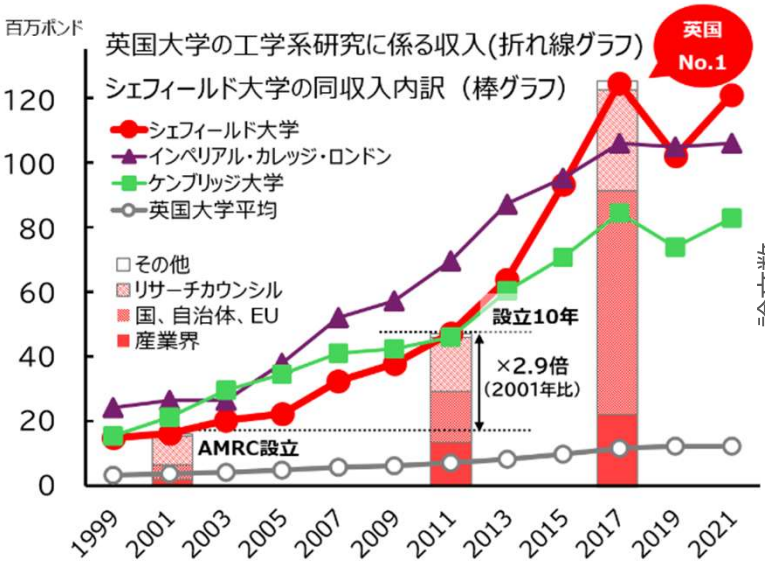
学生数：約28,000人
THE世界ランキング2025：98位

- 英国中部工業都市シェフィールド（英国第5位、人口約52万人）に1905年設立　　(参考)岐阜市人口40万人
- 英国大学ランキング上位10位、**航空工学、機械工学は英国３位**
- 工学分野の研究収入が**英国トップ**
- **AMRCがシェフィールド大学の発展を牽引**

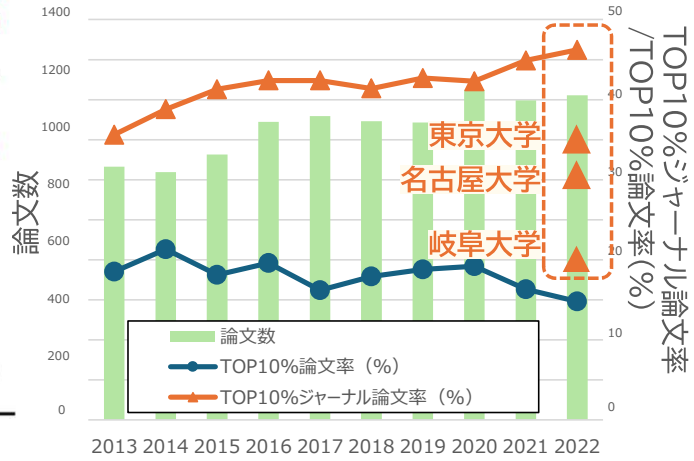




学生が選ぶUniversity of the Year 2024 –All UK 第1位



生産技術分野におけるシェフィールド大学の状況



シェフィールド大学の教育施設 The Diamond
学際的な工学教育のため実践的な実験等を行う





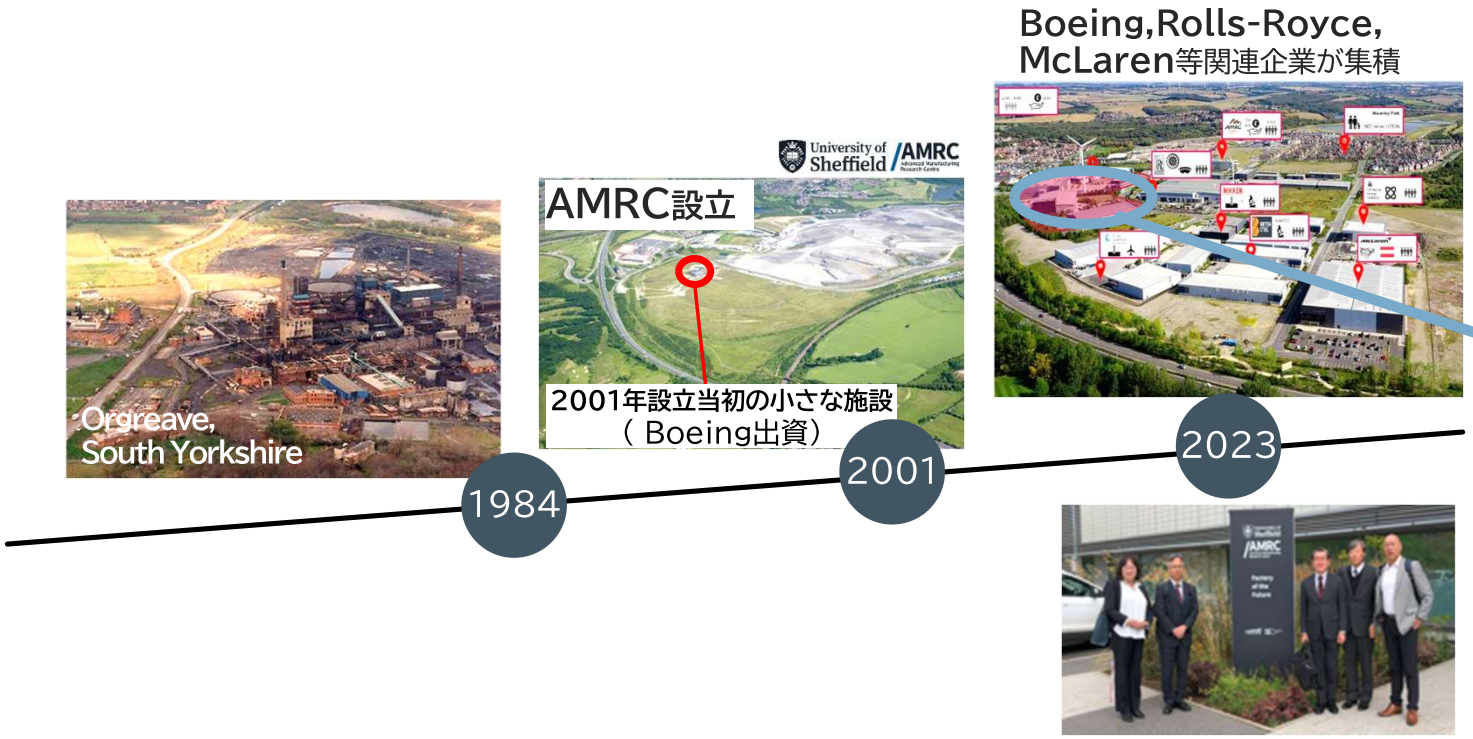
【参考】共創型社会実装大学構想におけるベンチマーク機関の概要

ベンチマーク機関

○共創研究の世界的成功事例：英国シェフィールド大学AMRC
（Advanced Manufacturing Research Center）

- 研究者・エンジニア約500名を企業経験豊かなトップ、元官僚、企業代表などでガバナンス
- **研究分野は、機械加工、鋳造、複合材料製造、設計とプロトタイピング、構造テストなど**

経済効果
経済成長への年間寄与
（総付加価値：英国のGDPへの貢献額）
110億円/年



AMRCセンター群



強い経済の基盤となる、科学技術人材の育成：　基本的考え方と方向性

基本的考え方

- **科学技術・イノベーション**は、**技術力**をはじめとする**総合的な国力の源泉**。国力の基盤は**人材力**。
- 優れた**科学技術**と、**科学技術人材の力**の抜本強化こそ、**新技術立国**の実現と**国力強化**に不可欠な、**国の存立・発展の礎**。
- **先端技術分野での国際競争**は激化しており、**最先端技術とビジネスの近接化**への対応が急務。
- **17の戦略分野の取組と連動しつつ**、**科学技術人材育成**のための**人的投資の抜本的拡充**と、**科学技術・イノベーション**による、供給力の強化に取り組む。
- **大学**や**国立研究開発法人**は社会実装を実現する上で要となる。

科学技術人材育成施策の方向性

① **人的投資の抜本的拡充・強化**とともに、**「知の価値」を最大化**すべく**科学技術人材の社会の多様な場での活躍を促進**。この方針の下、**多様な科学技術人材の育成・確保**、**各教育段階での人材育成**、**制度・システム改革**を推進する。

② 人材が属する / 人材を支える**組織・機関の役割を一体的に強化**する。科学技術人材の育成・活躍を強力に推進する中核として、挑戦的研究・産業イノベーションを牽引する**研究大学群**を**形成**するとともに、人材が結集し国家的課題への挑戦を担う**国立研究開発法人**の**体制・機能を強化**する。



第221回国会 高市内閣総理大臣施政方針演説［抄］
（令和８年２月20日閣議決定）

●外交力、防衛力、経済力、**技術力**、情報力、そして**人材力**。日本の**総合的な国力**を徹底的に強くしていく。そのために、これまでの政策の在り方を根本的に転換してまいります。

●高市内閣の成長戦略では、**供給力強化を目的に、先端技術の社会実装の実現を重視**しながら、事業者の予見可能性を高める大胆な措置を講じていきます。量子、航空・宇宙、コンテンツ、創薬などの17の戦略分野については、大胆な投資促進、国際展開支援、人材育成、研究開発、産学連携［…］供給及び需要の両面にアプローチする多角的な観点からの総合支援策を講じます。

●**「強い経済」の基盤となるのは、優れた科学技術力**です。大学改革を進めるとともに、基礎研究を含めた**科学技術研究の基盤を強化**し、イノベーションを通じた経済成長や国際的地位の確保を達成する**「新技術立国」を目指します**。

出典：日本成長戦略会議人材育成分科会（第2回）（R8.3.24）配布資料
※資料をもとに一部再編

戦略産業クラスター計画等の全体像

2026.7.31. 地域未来戦略に関する関係副大臣等会議（第5回）

資料１

- 「A.戦略産業クラスター計画」では、62個ある戦略17分野における「主要な製品・技術等」の内、半導体、空飛ぶクルマ、民間航空機MRO、ロケット・射場、次世代船舶、バイオものづくり、医薬品・再生医療、洋上風力 について、**13件**を策定・公表。
- 「B.地域産業クラスター計画」では、水素、半導体、バッテリー等**６件**、「C.地場産業成長プラン」では金属洋食器や有機農業等**４件**を、自治体から報告。今後、８月中を目途に、自治体の策定した「B.地域産業クラスター計画」や「C.地場産業成長プラン」を公表予定。

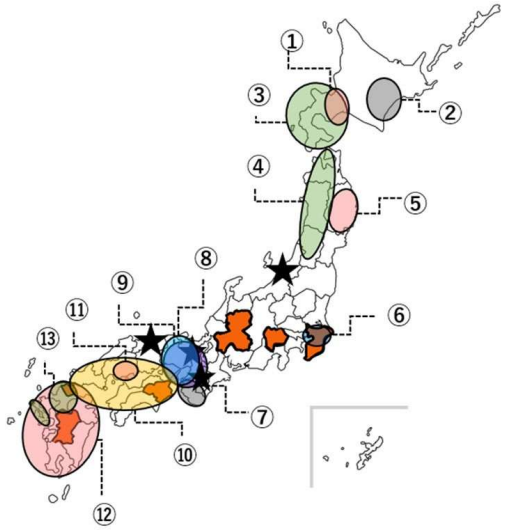
（凡例）
No.〇〇クラスター（地域）　※色は産業を表す
1. 核となる投資案件
2. クラスター計画の概要
3. 2040年までのKGI
（官民設備投資額/付加価値増加額/人材育成数）
4. インフラ・拠点整備案件

B. 地域産業クラスター計画

・千葉県：京葉臨海コンビナートを核としたGX産業集積の形成
・山梨県：水素の製造から消費までを通じた水素関連産業の発展
・岐阜県：航空宇宙、半導体、ヘルスケアを各々支えるサプライチェーン集積
・徳島県：車載型や定置用バッテリーの生産拡大による地域経済の振興
・熊本県：半導体産業等の集積による産業創出拠点の形成
・福岡県北九州市：フィジカルAIの社会実装による産業集積と新産業創出

C. 地場産業成長プラン

・新潟県燕市　：金属洋食器産業の分業体制再構築やブランド価値向上による高付加価値化
・京都府亀岡市　：有機農産物の集荷・加工拠点の整備と６次産業化等による付加価値創出
・奈良県下市町　：温泉やKITO、地域食材等を核としたローカルウェルネス観光の推進
・鳥取県　：ミールワームを活用したビタミンD3の生産及び高付加価値商品の展開



①半導体クラスター（北海道）
1. Rapidus、産総研　先端半導体研究開発拠点
2. Rapidusを核とした先進半導体・AI産業の集積を作るべく、イ　　ンフラ整備やサプライチェーン強靭化、人材育成を進める。
3. 【投】7兆270億円 /【付】31兆3,591億円 /【人】12,805人
4. 工業用水施設、工業団地周辺道路等

②ロケット・射場クラスター（北海道）
1. インターステラテクノロジズ、SPACE　COTAN
2. 高頻度打上げ実現に向けた宇宙産業拠点を形成。
3. 【投】3,142億円/【付】5,876億円/【人】2,400人
4. 射場（LC1）、道路整備等

③洋上風力クラスター（北海道）
1. 民間企業　※非公開
2. 鉄鋼、造船等の企業集積を生かし、親和性の高い洋上風力関連産業を振興し、地域に稼ぐ力を取り戻す。
3. 【投】3,285億円/【付】7,684億円/【人】10,620人
4. 岸壁・クレーン等の港湾施設の整備等

④洋上風力クラスター（東北）
1. 海洋再エネ整備法 促進区域の事業者
2. 基地港湾の整備等を進めることで、洋上風力建設から維持管理に至る、一貫した風力産業基盤を形成する。
3. 【投】3,924億円/【付】9,177億円/【人】950人
4. 基地港湾整備等

⑤半導体クラスター（東北）
1. キオクシア岩手
2. 大容量・高性能なNAND型フラッシュメモリ製造による国際競争力ある産業集積を目指す。
3. 【投】１兆2,700億円 /【付】５兆6,600億円/【人】4,780人
4. 浄水場整備等

⑥民間航空機MROクラスター（千葉県成田空港周辺）
1. JALエンジニアリング、IHI、ANA
2. アジア有数のMRO拠点を整備し、成長する航空機MRO需要を取り込んでいく。
3. 【投】235億円/【付】790億円/【人】330人
4. 自動車道、用地整備等

⑦ロケット・射場クラスター（近畿）
1. スペースワン
2. ロケットの高頻度打上げを実現するエコシステムの形成
3. 【投】505億円/【付】945億円/【人】2,280人
4. 高規格道路整備等

⑧空飛ぶクルマ クラスター（近畿）
1. SkyDrive
2. 万博レガシーを活かし、空飛ぶクルマの社会実装を先導。我が国の空飛ぶクルマ産業化の中核拠点を目指す。
3. 【投】348億円/【付】1,191億円/【人】1,100人
4. 空航拠点整備等

⑨バイオ・先端医療クラスター（近畿）
1. 日揮HD、クオリプス、神戸大学等
2. 大阪・神戸の二大拠点を核とした我が国企業のグローバルシェア10%獲得を中心となって支える。
3. 【投】388億円/【付】2,026億円/【人】約3,000人/年
4. 神戸港の機能強化整備等

⑩次世代船舶クラスター（瀬戸内）
1. 今治造船、新来島どっく、川崎重工業、尾道造船等
2. 次世代船舶の国際供給拠点化と安定的な国内建造体制の構築、国家安全保障基盤の強化を目指す。
3. 【投】5,000億円/【付】3兆5,000億円/【人】3,400人（※いずれも2034年度までの値）
4. 輸送ターミナル整備等

⑪半導体クラスター（広島県内）
1. マイクロン
2. 世界の半導体市場の成長を牽引する先端メモリの製造中核拠点として、日本の半導体産業を振興する。
3. 【投】3.2兆円/【付】14.2兆円/【人】4,500人
4. 工業用水整備等

⑫半導体クラスター（九州）
1. JASM、SONY
2. 半導体産業集積から、域内で自ら価値を創造し、持続的に成長するエコシステムへの転換を志向
3. 【投】2兆4,945億円/【付】11兆1,054億円/【人】5,725人
4. 道路、工業用水整備等

⑬洋上風力クラスター（九州）
1. 日鉄エンジニアリング、みらいえのしま
2. アジア太平洋市場を獲得するサプライチェーン拠点化。
3. 【投】855億円/【付】2,000億円/【人】14,700人
4. 産業用地、港湾整備等

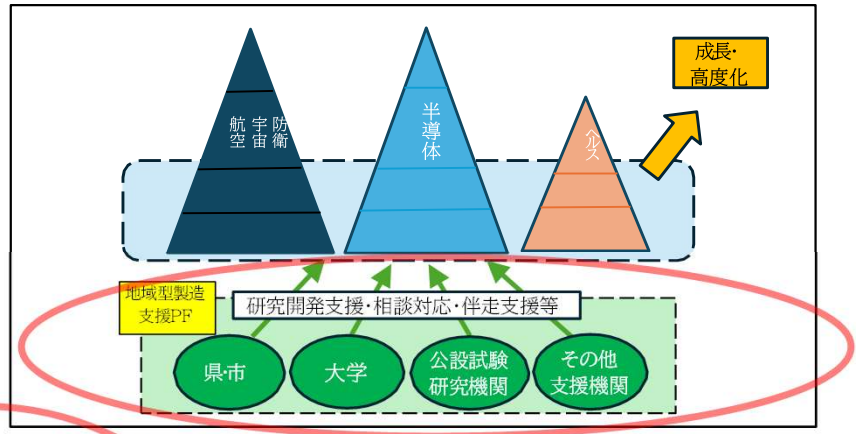
岐阜県 「成長・戦略分野を各々支えるサプライチェーン企業による地域産業クラスター計画」の概要

1．産業領域

航空・宇宙・防衛、半導体、ヘルスケア産業を下支えするサプライチェーン企業

2．対象エリア

東海環状自動車道沿線を中心とする地域
・西濃・中濃・東濃エリア
(岐阜市、大垣市、多治見市、関市、中津川市、瑞浪市、恵那市、美濃加茂市、土岐市、各務原市、可児市、本巣市、海津市、養老町、垂井町、輪之内町、揖斐川町、大野町)



3．目指す姿（目標）

＜目指す姿＞
「ものづくり県」の強みを生かし、各成長・戦略産業ごとに、市場や技術ニーズに応じたサプライチェーン企業を集積・支援し、各成長・戦略産業と併せて当該産業を支える地域製造業がともに成長することで、県内に強い経済圏を築く。

＜目標(2036年)＞
・官 民 投 資： 1兆321億円(累計)
359億円(2036年)
・付加価値額：10年間で 2,780億円
(＋44%)の増
・人 材 育 成：14,330人育成
・企 業 立 地：10年間で132件増

4．勝ち筋

出口企業を支えるサプライチェーン企業とともに、教育研究・支援機関が集積し、岐阜県の地域製造業全体が持続的に成長する好循環を通じて、付加価値創出力の高い経済圏の形成が期待できることから、以下を勝ち筋とする。

①出口企業ニーズに直結したサプライチェーン企業の高度化
②産学官連携による地域型製造支援プラットフォーム(仮称)の構築
③基盤産業の持続的成長を支える人材育成・確保

5．政策手段

次に掲げる本県独自の政策により、県内企業の経営基盤の全体的強化を図る。
加えて、重点企業群に対しては地域型製造支援プラットフォーム（仮称）を中核に、伴走支援等を集中的に実施する。

①地域型製造支援プラットフォーム(仮称)によるトータルマネジメント・プランニング支援
②設備投資支援
③人材育成支援
④技術開発・実証・現場実装及びオープンイノベーション支援
⑤人的支援
ａ.専門コーディネーターによる支援
ｂ.企業誘致マンツーマン支援

発展し続ける岐阜大学～どうする次の10年

MAKE NEW STANDARDS.
東海国立大学機構
岐阜大学

目次

01 東海国立大学機構
ミッション・ビジョンと共発展モデル

02 岐阜大学の組織・ビジョン・戦略
岐阜大学の教育研究組織及び執行部
ミッション・ビジョン・戦略
ぎふのミ・ラ・イ・エ構想

03 法人統合による効果
学生にとってのメリット
連携拠点支援事業

04 岐阜大学の活動実績等
活動実績・受賞歴・基金　外

05 教育改革
入試改革
教養教育改革
組織整備

06 研究力強化の方向性
第4.X世代大学　4th Generation University+
大学の現状と課題及び改革の方向性

07 岐阜大学の役割と
ミッション実現化に向けた構想
キャンパスまるごと共創型社会実装大学構想
岐阜県まるっとキャンパス構想

08 国際展開
インド工科大学グワハティ校との交流
日印経済フォーラム

09 地域と共に発展し続ける岐阜大学

岐阜大学の役割とミッション実現化に向けた構想

【岐阜大学のリージョナル・コモンズとしての役割・使命】
- 東海各県域を中心とした**地域の中核的大学**
- 学部、大学院（修士課程）重視
- **特定の領域において、全国／世界レベルの研究 実績を創出、関連する博士課程の充実**
- **卓越した地域創生への貢献と人材育成・人材供給（高度専門職業人の育成と活用）**
- **地域自治体、企業、アカデミアとの連携**
- 東海機構の一員としてGCの発展と連携を支援、T-PRACTISSの実現に貢献

2つの柱となる構想によりミッションを実現化

研究の力で社会を変える
「キャンパスまるごと共創型社会実装大学」

教育の力で社会を変える
「岐阜県まるっとキャンパス構想」

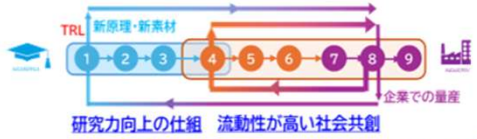
東海国立大学機構の共発展モデル

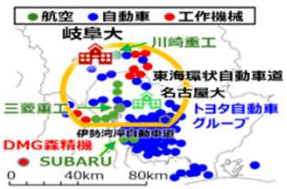


地域と共に発展を目指す岐阜大学　4th generation University +

1．キャンパスまるごと共創型社会実装大学構想

岐阜大学独自の共創研究のアプローチを大学改革ドライバーとし、ものづくり分野から新規分野への波及と総合知研究の推進により共創型社会実装大学へフルモデルチェンジする







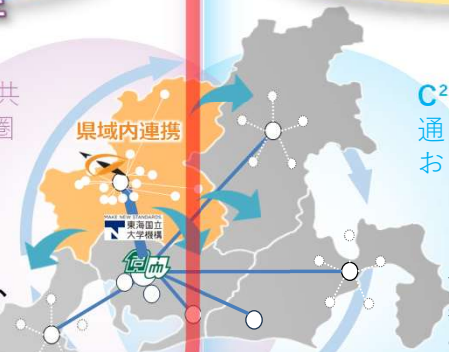
現在進展中のｺﾝｿｰｼｱﾑ

- 持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム【4社4講座】
- スマート金型開発コンソーシアム【14社15講座】
- 3次元積層造形活用技術開発コンソーシアム【6社6講座】
- 未利用炭素資源循環コンソーシアム【R8.10予定・3社3講座予定】

T-PRACTISSを通じて企業等との共創を推進し、研究成果を東海経済圏の産業競争力や社会的価値へ転換

共創型社会実装大学

社会課題の発見から共創、社会実装、イノベーションの創出、新たな研究領域形成までを循環させる新たな第４世代大学モデル



2．岐阜県まるっとキャンパス構想

産官学金連携のもと、地域の多様な大学を牽引し、大学空白地域等へのサテライトキャンパス整備により大学機能を全県に拡充する。高等教育へのアクセス確保と教育機能強化により、若者が定着・活躍する持続的地域社会の創生に貢献する

C²-FRONTSの広域アカデミア連携を通じて他県域へモデル展開し、地域における教育連携の拡大と高度化を加速

地域変革中核大学

全県への高等教育機能の拡充と高等教育機関へのアクセスを確保し、地域人材の養成確保、若者活躍社会を実現する新たな高等教育モデル

県内各地にサテライトキャンパスを設置



サテライトキャンパス設置や、産官学金連携により、オール岐阜の視点から県共通の課題解決を推進

大学等連携推進法人GIA-Gifuを活用した岐阜県内の高等教育機関連携

地域・社会課題を、新たな知と地域変革へつなぐ新しい大学モデル

岐阜大学が地域の中核拠点となり自治体や産業界、高等教育機関を牽引し、第4世代大学として地域創生に貢献する

戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業 （岐阜大学の取組）

【取組概要】 世界屈指の自動車・航空宇宙産業の集積地である東海地域の強みを活かし、グローバル企業等のニーズを起点とする共創研究を大学改革ドライバーとして戦略的に大学改革を進め、その仕組みを大学全体に波及させることにより、10年後に「**キャンパスまるごと共創型社会実装大学**」**へと変革**する。

【実施体制】

共創型社会実装大学
ガバニングボード
事業総括：学長 / 副学長
東海機構経営協議会 学外委員数名

新規設置

資源配分、事業評価

戦略提案、進捗報告

学部・研究科・各センター

研究者 循環 研究者

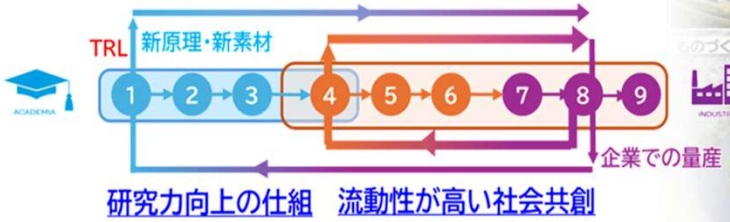
高等研究院 社会実装研究コア

社会実装研究コア運営委員会
- アクションプランの策定・推進
- 新たな研究課題の検討・策定
- コンソーシアム間の調整
- 本構想の進捗状況点検
- 社会実装研究コアの運営に必要な事項の審議

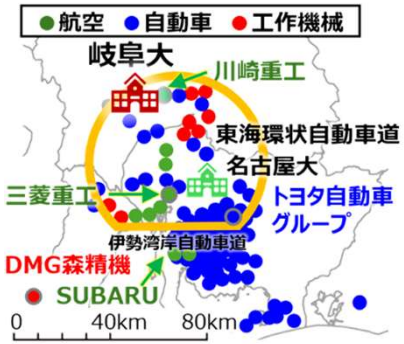
■ナレッジナビゲーショングループ ■コンソーシアム運営支援グループ
■社会実装研究開発グループ

共創コンソーシアム
金型コンソ/航空コンソ
3D積層コンソ
Boeing、トヨタ自動車、三菱重工業、川崎重工業、SUBARU、豊田合成、大同特殊鋼など、計25社

新たな共創コンソーシアムの組成　共創型社会実装大学のヘッドクォーターとして機能







岐阜大学独自の共創研究アプローチ

「特色ある産業」東海地域の自動車・航空宇宙産業

航空宇宙分野における地域や産業界との連携（航空宇宙、地域連携、産業界との連携）

1 航空宇宙生産技術開発センターの取組



- 内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」事業を通じ、地域企業、自治体等と連携した研究開発を推進
- **TRL（技術成熟度レベル）7以上の研究成果を創出し、累積38件を企業現場に導入**
  製造工程における生産計画の準最適化、高精度加工のための接触検出方法など
- **学生による地域企業現場訪問を20回以上、地域企業との実証研究を累計11件実施**
- 令和9年度以降、**「研究開発地域展開部門」を新たに位置付け**、地域企業との連携を強化

2 持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム（CSAP）の取組



- R7年3月に**「持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム（CSAP）」を設立**
  ボーイング、三菱重工業、川崎重工業、SUBARU等の企業と連携し、航空機製造における自動化・省力化技術の研究開発やAI・ロボティクス技術を活用した航空機製造現場における技術課題の解決等を遂行
- 準会員企業制度を設け、研究開発目的であれば**準会員は知的財産を無償で使用可能**
- 企業単独では実施が困難な業界共通課題の研究開発や認証を見据えた実証基盤の構築の推進、競合企業が協調して取り組むことのできる**透明性の高いマネジメントの提供**

3 宇宙産業に係る取組



- 岐阜県が主催する**「GIFUスペースビジネス協議会」会長に学長が就任**

岐阜県の中核産業となり得る宇宙産業のプラットフォームとして120社以上が加盟する

H28年度から県内高校生対象の「**宇宙工学講座**」を開始し、延べ96校497人の修了者を輩出

R4年度から高校生が岐阜大学と連携し小型人工衛星を打ち上げる「**ぎふハイスクールサット（GHS）プロジェクト**」を実施

高大連携による航空宇宙人材の育成

宇宙工学講座

平成28年度にスタートした岐阜大学「**宇宙工学講座**」は、令和7年度までに岐阜県内の**高校延べ96校から497人の修了者**を輩出

JAXA等見学ツアーの様子



国立天文台野辺山宇宙電波観測所見学



JAXA筑波宇宙センター見学

缶サット甲子園への参加







高校生が自作した缶サット（空き缶サイズの自律型飛行ロボット）を打上げ、技術力・創造力を競う競技会

令和7年度岐阜地方大会　優勝：岐阜北高校　準優勝：金沢市立工業高校（全国大会でも準優勝）

モデルロケット・模擬衛星実習





缶サットの製作基礎からプログラミングまでの基本的知識の習得やロケット技術に関する講義を通じて研究を進め、高校・大学間の交流を推進

ぎふハイスクールサット(GHS)プロジェクト

岐阜の高校生が制作した人工衛星が宇宙へ！

岐阜県は宇宙産業の育成に向け、令和3年度に「**ぎふ宇宙プロジェクト研究会**」を設置。
令和4年度には、岐阜大学を中心に高専・工業高校、県内企業、JAXAが連携し、小型衛星の設計から製造・打上げ・運用までを担う「**ぎふハイスクールサット(GHS)プロジェクト**」を発足。

令和7年8月24日「らいちょう」が宇宙へ

ケネディ宇宙センターから、「らいちょう」を載せたロケット「Falcon 9」が宇宙へ飛び立ちました。


打ち上げ成功に沸く会場（OKB岐阜大学プラザ）

令和7年9月19日「らいちょう」がISSから衛星軌道へ

岐阜県庁でライブビューイングイベントを開催。関係者約70名が集まり宇宙への放出を見守りました。


ライブビューイングの様子（岐阜県庁20階清流ロビー）

「第2回スペースビジネスシンポジウム in 岐阜」に参加し、GIFUスペースビジネス協議会会長として開会挨拶を行いました





航空宇宙研究教育拠点　航空宇宙生産技術開発センター　主な活動実績１

国内初の「航空宇宙生産技術」に関する人材育成・研究開発拠点

航空宇宙生産技術開発センター

岐阜大学は、人と技術を育て、航空宇宙産業を支えます

国内初となる航空宇宙生産技術に関する教育・研究開発を行う拠点として岐阜大学に設置。産学金官が連携し、**将来の航空宇宙産業界に必要とされる人材の育成・研究開発**を行います。



TOPICS 東海クライマックスシリーズ2026

学生が製作した飛行ロボットの頂点を決定！
9/18に145名の来場者が見守る中熱戦を展開！



プロジェクト全体概要

地方大学・地域産業創生交付金事業
2018（H30）～2022（R4） 支援期間前半

①基盤整備	②研究開発	③人材育成
人材招へい・環境整備、センター運営	情報通信・加工組付けロボット・AMR・先端加工の研究開発	航空機生産技術人材育成事業の実施

2023（R5）～　展開枠・自走期間

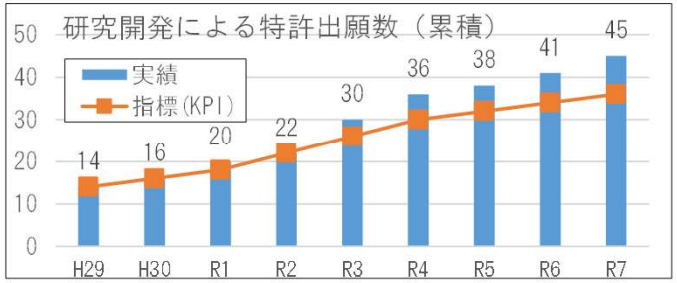
	自走事業	
①運営を継続	②航空機関連企業へ展開	③学生・社会人育成を継続

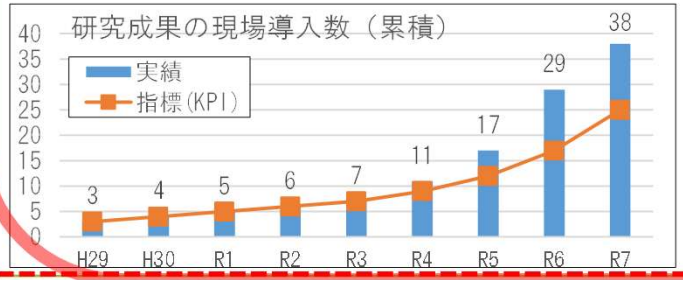
展開枠事業　※次ページ参照		
①新たな機能「技術開発・実証ラボ」を設置・運営	②研究成果の他分野展開実装早期化に向けた実証研究	③学生の人材育成とともに研究成果の現場実装を実施

研究開発事業の実績　自走事業②

特許出願45件・現場導入38件（累積）
いずれもKPI目標を上回る成果を達成

サイバー・フィジカル・ファクトリーの実現。
情報通信技術、加工組付けロボット、先端加工技術、AMRの４つのスコープから研究開発実施

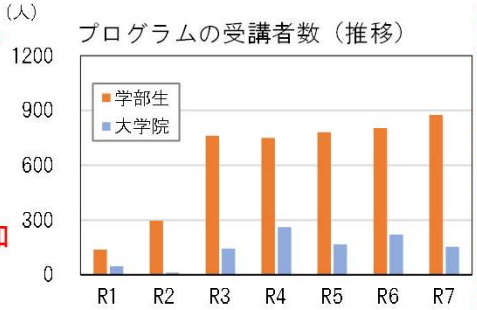




人材育成事業の実績　自走事業③

生産システムアーキテクト人材育成プログラム

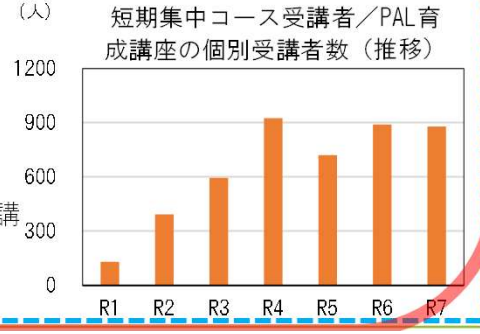
受講者累計5,410人
プログラム対象学科・専攻における**県内就職者数は、**事業開始後は平均約27人と開始前の**約1.5～1.8倍に増加**



生産システムアーキテクト・リーダー育成プログラム

社会人技術者のプログラム受講者数
R6：14名(10社)
R7：15名(10社)

短期集中コース受講者（累計）
延べ 4,500人以上



強み・特色３分野を中核とした発展

岐阜大学の強み特色の強化･展開による地域との発展モデル

強み・特色ある研究ならびに将来性のある研究を戦略的に発展させるため、「生命」科学分野，「環境・エネルギー」科学分野，「ものづくり」分野を研究の柱とし、岐阜大学の総合知により、更なる機能強化、新分野の創出、地域との連携を推進し、地域活性化の中核拠点として地域と共に発展を実現します。

社会課題の解決に貢献し世界を視野に地域と共に発展

県内及び東海地域を視野に連携拡大・強化

県内唯一の国立大として地域を牽引

リソース(資金、人材、設備等)を共有・循環・拡充

産業界 地域社会

地域住民 自治体 教育機関 医療・福祉機関 金融機関

生命 ものづくり 環境

学部・研究科等 研究センター等

iGCORE 糖鎖研究 国家プロジェクトとして世界展開

COMIT One Medicine 創薬研究を加速

生命

航空宇宙生産技術
複合材料
金型技術
航空宇宙産業クラスター形成と人材輩出

ものづくり 環境

環境社会共生体研究センター設置（2024.4）

新エネルギー、カーボンニュートラル分野等の強化

新たな研究分野の創出

新分野

生命

糖鎖科学や医獣薬連携による次世代生命科学を推進し、創薬や新しい医療分野を開拓

地域活性化の中核拠点

新分野

ものづくり

航空宇宙分野をベースに生産技術やコンポジット材料を幅広い産業に横展開し、サステナブル･マニュファクチャリングを核とした世界屈指の共創型社会実装大学へ発展

「ものづくり」分野を核として学内に横展開

新分野

環境

再生可能エネルギー、カーボンニュートラルなど環境科学分野における国際的な研究拠点を形成し、地球温暖化や生態系機能の科学的知見の創出により環境保全に寄与

法人化（2004） 法人統合（2020）
強み・特色の創成～3期（２０２１）

強み・特色の確立・強化 ～４期前半（２０２４）

強み・特色の拡大・展開 ４期後半（２０２５）～

糖鎖生命コア研究拠点（iGCORE） 糖鎖生命コア研究所 主な活動実績

iGCORE
Institute for Glyco-core Research

糖鎖の集合体を解き明かす世界トップクラスの統合糖鎖研究所

共同利用・共同研究拠点および大規模学術フロンティア促進事業を推進します.

10月3日は糖鎖の日！糖鎖の日を記念して、ACGG 2026（産総研（つくば））にてイベントを行いました。





外部機関との協定締結・視察受入等 主な動き



■R7.5 Canadian Glycomics Networkと学術交流協定を締結

カナダのGlycoNetと学術交流協定（MOU）を締結。国際共同研究・研究ネットワークの強化と、ヒト糖鎖ナレッジベース「TOHSA」の構築・活用促進が期待されます。



■R7.6 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長らがiGCOREを視察

倉田文部科学省ライフサイエンス課長らがiGCOREを視察。糖鎖研究・生命科学の発展に向け、教員と意見交換を実施。



■R8.4 フランス国立科学研究センターとの国際研究ラボ設立合意書締結

名古屋大学とフランス国立科学研究センターは、学内に「IRL Glyco MIRAI」を設立する合意書を締結。名古屋・岐阜両大学のiGCOREが参画し、糖鎖の国際共同研究を推進する。

iGCORE論文出版状況（令和8年10月27日現在）

■研究論文数は研究所開設時から年々増加

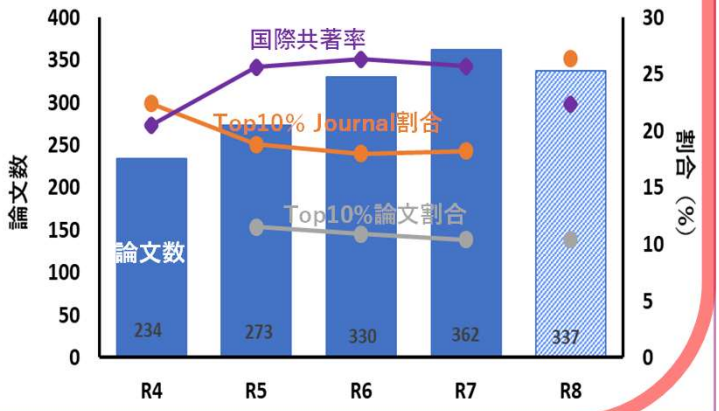
令和4年 234報 → 令和7年 362報
令和8年 337報（10/27現在）

■Top10% Journal割合は18%以上をキープ

令和7年 18.2%（SciVal調べ）
令和8年 26.3%（10/27現在）

■国際共著論文割合は25%を維持

名古屋 - 岐阜の研究所内の共同研究や**国際共同研究、異分野融合研究も増加**



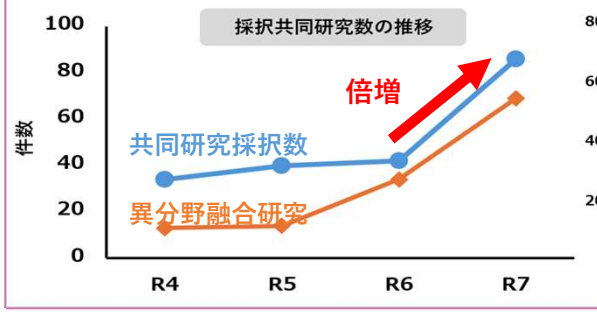
糖鎖生命コア研究拠点（iGCORE） 糖鎖生命コア研究所 主な活動実績

研究推進の状況

■令和7年度の主な論文掲載等

- 鈴木 健一 教授研究グループの論文が“Nature Communications”に掲載
- 佐藤ちひろ 教授研究グループの論文がScientific Reportsに掲載
- 多喜正泰教授らの研究グループ研究成果が“Journal of the American Chemical Society”に掲載
- 木塚教授らのグループの研究成果が“iScience”に掲載
- 小坂田教授らの研究グループの研究成果が”Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America”に掲載
- 藤田教授らのグループの研究成果が“Journal of Cell Biology”に掲載
- 原田特任教授らのグループの研究成果が“Glycobiology”に掲載（Editor’s Choiceに選出）
- Guerardel教授らのグループの研究成果が“ Nature Communications”に掲載
- 安藤教授らのグループの研究成果が“ Organic Letters”に掲載
- 池田教授らのグループの研究成果が“ Advanced Biology”に掲載

■R７年度公募型共同研究を刷新 共同研究の促進が加速



■共同研究・共同利用者の参画者数 R7年度は倍増



糖鎖研究裾野拡大に向けた教育・普及活動、アウトリーチ活動

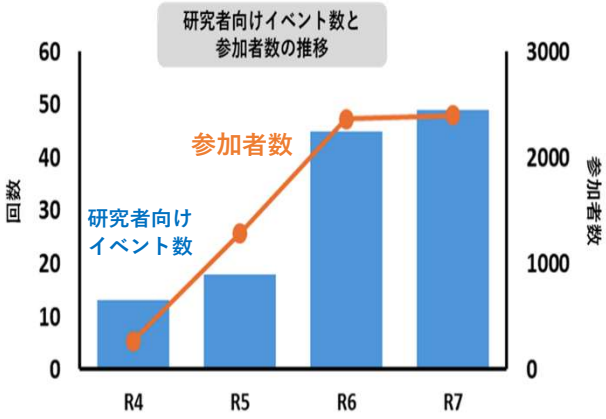
■Glyco-Core Symposium 2026

2026年10月29日～30日に名古屋大学（豊田講堂）にて開催。iGCOREが主催する糖鎖 - 異分野融合を目指した国際シンポジウム。J-GlycoNet、HGAと連携し、成果発表、情報発信を実施。

【過去の参加者数】 2024年度 411名
2025年度 373名



■拠点活動の活発化に伴ってイベント数・参加者数とも順調に伸長



■iGCOREの活動・成果等の新聞掲載実績46件

（令和8年9月末実績）

■積極的情報発信を展開しプレスリリース数が年々増加（令和8年度は9月末実績）



One Medicine 創薬シーズ開発・育成研究教育拠点（COMIT）

One Medicine 創薬シーズ開発・育成研究教育拠点（COMIT）

R5.1　高等研究院内に**One Medicine トランスレーショナルリサーチセンターを新設**
R5.4　東海機構直轄拠点（現連携拠点）**One　Medicine　創薬シーズ開発・育成研究教育拠点として認定**
R6.4　名古屋大学One Medicine 生命－創薬 共創ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑを設置　東海国立大学機構連携拠点に移行



【目的】◆「**One Medicine（ヒトと動物の疾病は共通）」の視座**に立ち、わが国の創薬・先端医療研究を加速させる。
◆幅広い難治性疾患においてヒトと動物の両者を予防、診断、治療可能な医薬品の開発を推進し、「**Sharing Medicine（人獣共通医療学）」という新学術領域開拓の基盤形成**を目指す。
◆「創薬ﾘｻｰﾁﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ人材実践的育成ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」では、ﾘｻｰﾁﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ担当者や創薬研究者などを輩出し、創薬研究人材不足の解消につなげる。

産学連携による研究推進

包括連携協定を４社と締結

◆**日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社**と人獣共通医療学分野に関する包括連携協定を締結（R6.2）

◆**京セラ株式会社**と包括的な産学連携協定を締結（R6.12）

◆**ジンマー・バイオメット合同会社**と筋骨格系ヘルスケアの 研究開発及び社会実装化へ向けた産学連携に関する協定を締結（R7.1）

◆**日本全薬工業株式会社と**包括的な産学連携協定を締結（R7.1）



日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社との協定締結式



日本全薬工業株式会社との協定締結式

COMITの今後の展望

iPS細胞を活用した再生医療へ展開

東海機構コモンズ債を活用した施設改修により**研究環境がさらに充実。**

iPS細胞を活用した再生医療など、さらなる連携拡大の気運が高まっており、令和8年3月には再生医療をテーマとしたCOMITシンポジウムを開催。

【東海機構コモンズ債を活用した研究環境整備】







【26’3シンポジウム開催】



京都大学iPS細胞研究財団 研究開発センターの塚原正義センター長による特別講演



One Medicine 創薬シーズ開発・育成研究教育拠点（COMIT）

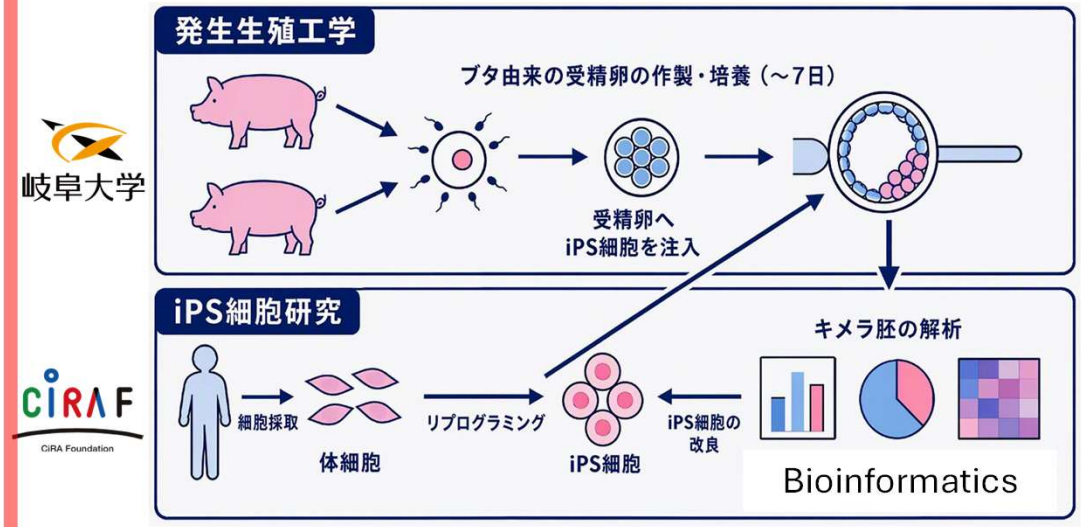
文部科学省の認可を受け、R8.7.31から動物性集合胚を用いた基礎研究が可能に！

近い将来、再生医療や移植医療の発展につながる基盤技術の確立に貢献することが期待されます。

モデル動物としてのミニブタによる連携 ～世界レベルの臓器再生研究の拠点へ～

京都大学iPS細胞研究財団との共同研究を実施

（研究内容）**ヒトiPS細胞**をブタの胚に加えた「**動物性集合胚**」を体外で培養します。ヒトの細胞の増え方や変化の仕組みを調べる基礎研究です。



iPS細胞を活用した再生医療など、さらなる連携拡大の気運が高まっており、令和8年3月には再生医療をテーマとしたCOMITシンポジウムを開催。



多様な専門性を持った研究者・技術者の協働による研究

岐阜大学のミニブタを活用し、**外部資金による研究を推進**。東海国立大学**機構債による施設改修で研究環境を整備**し、京都大学iPS細胞研究財団など機構外との**連携を拡大**。



研究立案・チーム構築・研究環境整備・処置後のケア・ディスカッションをトータルで考える



学内外へ波及する「新たな実験医学」の開拓

One Medicine 創薬シーズ開発・育成研究教育拠点（COMIT）

医学・獣医学・薬学・工学の研究者が連携し、ヒトと動物の創薬研究を推進
岐阜大学を中心に、名古屋大学・岐阜薬科大学と連携する研究教育拠点





本拠点では、「**ヒトと動物の疾病は共通**」、すなわち「**One Medicine**」という視座に立ち、医学－獣医学の境界を越えた新たな学際領域を開拓します。そして、**医学、獣医学、薬学、工学等の研究者が分野横断的かつ国内外で施設横断的に連携**し、有望な創薬シーズを開発・育成、さらには高度に選別し、治験につなげることで**ヒトと動物の創薬研究を変革**します。

COMITにおけるKPI目標の達成状況

全てのKPI※において年度目標を達成（※R8及び①の期間目標KPIは除く）

【青字表記のKPI実績値は年度目標達成】

KPI	R5	R6	R7	R8（7/1）
①TOP10%ジャーナル割合 ［研究力］	27.5%→32.5%			
	（31.8%）	（25.4%）	（21.4%）	（31.2%）
②疾患モデル動物（小型、中型）の作出件数（件／年） ［研究力］	12件	16件	20件	24件
	（22件）	（23件）	（27件）	（8件）
③人材育成プログラムの受講者数（延べ人数）※ ［人材育成］	試行的実施	80人／年（OJT有：10人／年、OJT無：70人／年）		
	（188人）	（190人）有：16人 無：174人	（171人）有：32人 無：139人	（実施中）
④橋渡し研究シーズA・Hに投入する件数（件／年） ［社会実装］	2件	4件	5件	8件
	（8件）	（14件）	（18件）	（実施中）
⑤外部資金受入金額（専任教員）（額／年） ［自走化］	0.29億円	0.7億円	1.2億円	1.8億円
	（0.4億円）	（0.86億円）	（1.30億円）	（1.38億円）

※上段：目標値、下段：実績

創薬リサーチマネジメント人材実践的育成プログラム

産学連携による実践教育を通じ、創薬研究を担う人材を育成
総受講者数670名、総合評価4.8／5.0の実績

【講義の様子】



✓大学院生を対象に、創薬シーズ探索から臨床研究までを総合的に理解し、**研究の連携管理を担う人材を育成**。製薬企業と連携した講義・実習・討論を通じ企業・大学・行政で活躍できる実践力を養います

リサーチマネジメント実践学【基礎編】	2026年度	2025年度（最終）	2024年度（最終）
総受講者数：	670名	499名（848名）	544名（878名）
（内）岐　大：	623名	450名（785名）	480名（785名）
名　大：	28名	29名（40名）	20名（30名）
岐薬大：	8名	1名（3名）	13名（13名）
その他：	11名	20名（30名）	31名（50名）
途中経過（第9講終了時点）での年度比較／最終的には基礎編で延べ1000名を超える模様			
平均受講者数：	74名	55名	60名
単位取得者数：	－－	46名	51名
総合評価：	4.8／5.0	4.8／5.0	4.7／5.0

07 岐阜大学の役割とミッション実現化に向けた構想
⑥Road Map（社会実装研究コア[＝SIRC]の発展）

	Phase 1	Phase 2	Phase 3	Phase 4
	初期段階　新制度・新コンソの立上げと運営ノウハウ蓄積	多分野におけるコンソの本格展開と体制改善	共創型社会実装大学に向けた機能の一層の高度化・深化	三位一体大学運営モデルの完成、世界的存在感の確立
	初期段階（R7～R9）	拡張段階（R10～R12）	変革段階（R13～R15）	成熟・ブランド確立段階（R16～R18）
運営	＊ イノベーション創出環境強化事業（実証事業）終了後のSIRC運用方法の設計 ＊ 社会実装による価値創造で、持続的な収入を得る経営方法の検討	＊ コンソ運営の統一化 ＊ フェーズ1で構築したマネジメント体制の改善	＊ 全学組織によるマネジメント	＊ 三位一体大学運営を定着させ、揺るぎない大学ブランドの確立
体制	■ 大学経営基盤構築：産業界と一体となって価値を ■ 創出し、社会実装までを大学の使命として担う制 ■ 度設計とマネジメント体制構築 ■ 人事制度改革：採用選考時のコンソ組成分野の優 ■ 先、参画教員へのインセンティブ付与 ■ 論文作成支援体制の整備 ■ 海外共同研究ネットワークの構築 ■ ELSI（倫理・法・社会的課題）研究体制の構築	■ 大学経営基盤の強化：大学と企業の垣根を取払う制度実践、教育まで含めた三位一体運営の制度設計 ■ 人事制度改革：教員評価制度の見直し	■ 大学経営基盤の強化：産学共創 ■ による大学院教育体制の構築 ■ 共創研究と基礎研究の相互促進による研究力の卓越化 ■ 人事制度の改善	
実践	○共創コンソの組成・運営 ○研究シーズ発掘強化（社会実装から基礎研究への還元、新コンソ組成へのシーズ探索） ○認知向上：社会的インパクトの大きい事例の創出と発信	○イノベーション創出環境強化事業（実証事業）終了後のSIRC運用方法の実践 ○多分野での新規コンソの検討・組成 ○Top10%ジャーナル論文投稿の促進（目標設定とモニタリング） ○海外共同研究の実施 ○ELSI研究の拡充	○共創コンソの新陳代謝と再編、参画企業の拡大 ○Top10%ジャーナル論文投稿の一層の促進 ○海外拠点とのコラボレーション（共同産学連携）	○社会的価値を絶え間なく創出するコンソ拠点を複数確立 ○岐阜で国際学会を主催等、国際的に研究者・産業界を惹きつける求心力の確立

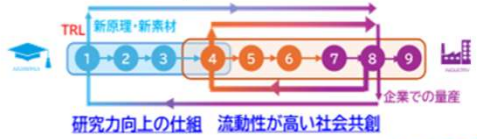
キャンパスまるごと共創型社会実装大学構想

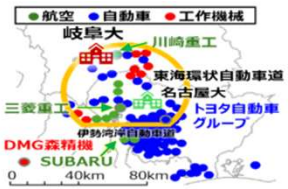


地域と共に発展を目指す岐阜大学　4th generation University +

1．キャンパスまるごと共創型社会実装大学構想

岐阜大学独自の共創研究のアプローチを**大学改革ドライバー**とし、**ものづくり分野から新規分野への波及**と**総合知研究**の推進により**共創型社会実装大学**へフルモデルチェンジする







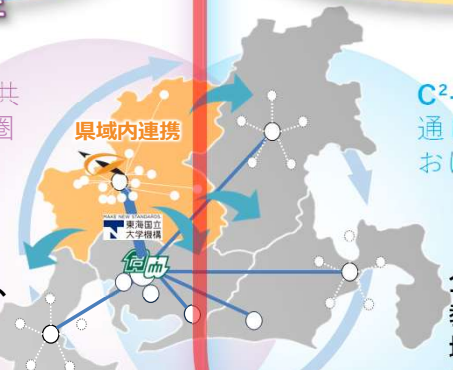
現在進展中のｺﾝｿｰｼｱﾑ

- 持続可能な航空機生産のためのコンソーシアム【4社4講座】
- スマート金型開発コンソーシアム【14社15講座】
- 3次元積層造形活用技術開発コンソーシアム【6社6講座】
- 未利用炭素資源循環コンソーシアム【R8.10予定・3社3講座予定】

T-PRACTISを通じて企業等との共創を推進し、研究成果を東海経済圏の産業競争力や社会的価値へ転換

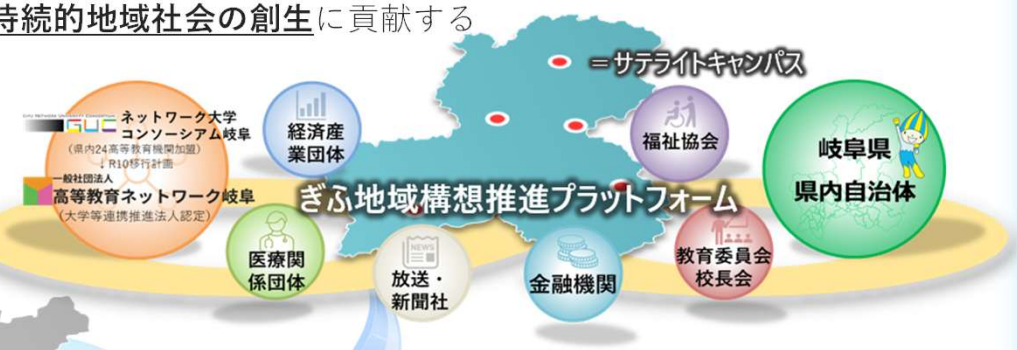
共創型社会実装大学

社会課題の発見から共創、社会実装、イノベーションの創出、新たな研究領域形成までを循環させる新たな第４世代大学モデル



2．岐阜県まるっとキャンパス構想

産官学金連携のもと、地域の多様な大学を牽引し、大学空白地域等へのサテライトキャンパス整備により大学機能を全県に拡充する。**高等教育へのアクセス確保**と教育機能強化により、若者が定着・活躍する**持続的地域社会の創生**に貢献する



C²-FRONTSの広域アカデミア連携を通じて他県域へモデル展開し、地域における教育連携の拡大と高度化を加速

地域変革中核大学

全県への高等教育機能の拡充と高等教育機関へのアクセスを確保し、地域人材の養成確保、若者活躍社会を実現する新たな高等教育モデル

県内各地にサテライトキャンパスを設置



サテライトキャンパス設置や、産官学金連携により、オール岐阜の視点から県共通の課題解決を推進

大学等連携推進法人GIA-Gifuを活用した岐阜県内の高等教育機関連携

地域・社会課題を、新たな知と地域変革へつなぐ新しい大学モデル

岐阜大学が地域の中核拠点となり自治体や産業界、高等教育機関を牽引し、第4世代大学として地域創生に貢献する

07 岐阜大学の役割とミッション実現化に向けた構想　岐阜県まるっとキャンパス構想

ぎふ地域構想推進プラットフォーム（GiPPL）による岐阜県まるっとキャンパス構想

背景・課題

- 岐阜県の高等教育機関の偏在（**大学空白地域の存在**）
- 自県大学進学率**21.6%**（37位／47都道府県）
- 県内高校生の**８割が県外に進学**、県外進学者の**Uターン１／３**
  → **若者の県外流出顕著**
- 地域に必要な**エッセンシャルワーカー等の不足・・・**

産官学金言等
オール岐阜体制
「GiPPL」
「GIA-Gifu」
大学等連携推進法人認定
高等教育ﾈｯﾄﾜｰｸ岐阜

× 協 働

岐阜県まるっとキャンパス構想

GiPPLとGIA-Gifuとの協働により、**県内で優秀な人材を育成し、定着・活躍を促す仕組**

地域活性化　若者ダム機能

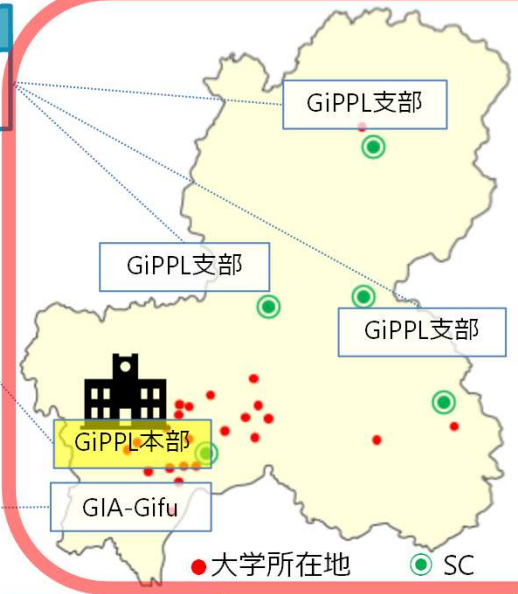
- 若者の県外流出抑制
  →**自県大学進学率の向上**
- 若者の定着促進：若者活躍社会
  →**雇用創出、産業振興**
- 地域に必要な人材養成・確保

産官学金言等「GiPPL」（Gifu Regional Concept Partnership Platform）構築と機能的大学間連携「GIA-Gifu」により、全県への高等教育機能の拡充、地域の高等教育機関へのアクセス確保、地域に必要な人材の養成確保、若者活躍社会へ

GiPPL支部
- 地域自治体、経済産業界等
- サテライトキャンパス（SC）設置・運営

GiPPL本部
- 産官学金言等、オール岐阜体制
- 県全体の課題対応（若者流出対策）
- 雇用につながる仕組み構築
  （インターンシップ強化、産業振興等）
- GiPPL支部活動検証・展開

GIA-Gifu （←ネットワーク大学コンソーシアム岐阜）
- 岐阜県の高等教育機関参画
- 高等教育の地域展開
- 大学等の機能強化



GiPPLとGIA-Gifuが展開する事業

①県内の大学等の機能強化
- 長期インターンシップ
- ネットワーク強化
- 高校改革との連動
- 基盤教育の共通化

②SCの設置・運営・活動
- 大学等、アクセス確保
- 地域の高校改革との連動
- 小中高生の学びの場
- 大・院生の実践的学修
- 社会人の学びの場

③若者の定着・持続的社会
- 雇用創出
- 産業振興
- 必須事業の推進
- 実践的教育成果
  による地域活性化

④地域のシンクタンク機能
- 長期的視点からの提言
- 俯瞰的視点からの提言
- 地域知的基盤の形成

R8年度	R9年度	R10年度		5年後	10年後
GiPPL体制構築	本部：活動準備 支部：SC設置準備	本部：活動開始 支部：SC活動開始	高等教育機能の県内拡充	アクセス確保 地域定着促進	若者活躍社会 地域活性化

発展し続ける岐阜大学～どうする次の10年

目次

01 東海国立大学機構
ミッション・ビジョンと共発展モデル

02 岐阜大学の組織・ビジョン・戦略
岐阜大学の教育研究組織及び執行部
ミッション・ビジョン・戦略
ぎふのミ・ラ・イ・エ構想

03 法人統合による効果
学生にとってのメリット
連携拠点支援事業

04 岐阜大学の活動実績等
活動実績・受賞歴・基金　外

05 教育改革
入試改革
教養教育改革
組織整備

06 研究力強化の方向性
第4.X世代大学　4th Generation University+
大学の現状と課題及び改革の方向性

07 岐阜大学の役割と
ミッション実現化に向けた構想
キャンパスまるごと共創型社会実装大学構想
岐阜県まるっとキャンパス構想

08 国際展開
インド工科大学グワハティ校との交流
日印経済フォーラム

09 地域と共に発展し続ける岐阜大学

学術交流協定大学

大学間＜20ヵ国１地域52大学＞　令和8年10月1日現在

ジョイント・ディグリー連携大学

アジア大陸・オセアニア

国名	締結年	協定大学等名
インド	2014	インド工科大学グワハティ校
	2018	アッサム大学
インドネシア	2001	アンダラス大学
	2006	ランポン大学
	2010	ボゴール農科大学
	2012	ガジャマダ大学
	2013	スブラス・マレット大学
	2021	ブラヴィジャヤ大学
	2022	バンドン工科大学
オーストラリア	1995	グリフィス大学
	2000	シドニー工科大学

国名	締結年	協定大学等名
韓国	1992	ソウル科学技術大学校
	2010	高麗大学校
タイ	1999	カセサート大学
	2003	チェンマイ大学
	2005	キングモンクット工科大学トンブリ校
	2025	シーナカリンウイロート大学
台湾	2026	国立中央大学
中国	1986	浙江大学
		広西大学
		電子科技大学
		江南大学
	2000	内蒙古農業大学
	2003	吉林大学

国名	締結年	協定大学等名
中国	2005	華僑大学
	2006	同済大学
	2007	内蒙古大学
	2011	内蒙古師範大学
バングラデシュ	2001	バングラデシュ農業大学
	2004	ダッカ大学
フィリピン	2018	マリアノ・マルコス州立大学
ベトナム	1998	ハノイ工科大学
	2018	フエ大学
マレーシア	2016	マレーシア国民大学



26’3 吉田学長らがインド工科大学グワハティ校を訪問



25’ 9 吉田学長等がマレーシア国民大学を訪問

ヨーロッパ・アフリカ大陸

国名	締結年	協定大学等名
エジプト	2009	ベンハー大学
スペイン	2018	サラマンカ大学
ドイツ	2002	エルフルト大学
	2008	バイロイト大学
ハンガリー	2001	パンノン大学
フランス	2014	パリ・サクレー大学
	2020	リール大学
モロッコ	2024	ラバト国際大学
リトアニア	2010	カウナス工科大学
	2012	ヴィータウタス・マグヌス大学



25’6 カウナス工科大学モニカー・マジアキーン准教授らが本学を訪問

アメリカ大陸

国名	締結年	協定大学等名
アメリカ合衆国	1985	サンディエゴ州立大学
	1990	ノーザンケンタッキー大学
	1997	ユタ州立大学
	2020	南フロリダ大学
カナダ	2017	マギル大学
		アルバータ大学
		レイクヘッド大学
ブラジル	1984	カンピーナス大学



25’4南フロリダ大学訪問団が本学を訪問

参考　部局間連携大学
＜30ヵ国1地域61部局＞

岐阜大学とIITGの国際共同教育による人材育成

IITGとの研究協力は2009年から開始され、最初のMOUは2012年に締結
2019年に日本とインド初のJDP開設

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN
GEPおよびIMPは日本政府「大学の世界展開力強化事業」の支援を受けています。

日本・インド初のJDP

1st Phase Joint Degree Programs

正規学生向けプログラム

“Food Science and Technology”


学位記
डिप्लोमा की डिग्री /
Degree Certificate

岐阜大学およびインド工科大学グワハティ校
Gifu University and Indian Institute of Technology Guwahati

氏名
पूरा नाम
First name Family name

岐阜大学およびインド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻の博士課程を修了したので博士号授与の学位を授与する
Description of the below in "Hindi language"

has successfully completed the Gifu University and Indian institute of Technology Guwahati International Joint PhD program in Food Science and Technology leading to the degree of Doctor of Philosophy

学位授与の日付
डिग्री प्रदान दिनांक
Awarded on Month Day, Year

Signature
岐阜大学
President, Gifu University

Signature
インド工科大学グワハティ校
Director, Indian Institute of Technology Guwahati

2019

35人

2014 大学間学術交流協定を締結

2012 最初のMOUを締結

2009 研究協力を開始

2nd Phase Joint-Certificate Program

博士課程：日本／インドで6か月研究

“Glocal Expert”

2022

グローバルな課題を理解し、具体的な地域課題の解決につなげる。

共同教育
共同研究

23人



日本とインドの北東地域（NER）を結ぶ架け橋となる修了生

3rd Phase Micro-credential Program

修士学生・社会人のリスキリング向け

“Intelligent Manufacturing”

2025

Robotics × AI

5人

日本・NER
共創エコシステム



地域の発展と活性化

丸山 はるか 氏
JDP（修士）第1期生
JETRO



Dr. Kiran Kumar Gali
アッサム州の起業支援機関NEST 最高経営責任者（CEO）



インド工科大学グワハティ校への訪問

2026年3月7日～11日 インド工科大学グワハティ校への訪問

訪問教職員： 吉田学長・リム副学長 外 計20名
他機関：他大学 政府関係機関 企業等 計21名

吉田学長、リム副学長らが、インド工科大学グワハティ校（IITG）を訪問。**グワハティJDPシンポジウムに吉田学長が登壇**し、北東インドを軸とした国際共同教育や産学連携の可能性について議論を交わしました。また岐阜大学とIITGを含む北東インドの計21大学による「**北東インド・日本大学連携コンソーシアム**」**の設立に向けた意向表明書署名式**が行われました。

グワハティJDPシンポジウム

日印双方の大学関係者、政府関係機関や産業界関係者など約190名が参加。吉田学長が日印間の学術協働の重要性を述べ、リム副学長は本学の国際展開や、JDP、インドとの教育・研究協働の広がりについて紹介。





グワハティJDPシンポジウム集合写真

コンソーシアムの設立に向けた意向表明書署名式

岐阜大学とIITGを含む北東インドの計21大学による「北東インド・日本大学連携コンソーシアム」の設立に向けた意向表明書署名式を開催。
岐阜大学は本コンソーシアムにおいて日本側の調整機関として位置づけられ、IITGと連携しながら北東インドと日本の大学・政府・産業界の連携を推進する役割を担います。


Letter of [illegible]署名式[illegible]写真

Campus Tourへの参加

Bionest and Assam Advanced Healthcare Innovation Institute をはじめ、IITGの先進的な施設を見学。



アッサム州政府主催の夕食会

日本企業による北東インド進出や、研究・教育連携、学生交流などについて意見交換を実施。



右から吉田学長、Dr.Ravi Kota 首席秘書官（アッサム州）、Devendra Jalihal学長（IITG）

日印経済フォーラム

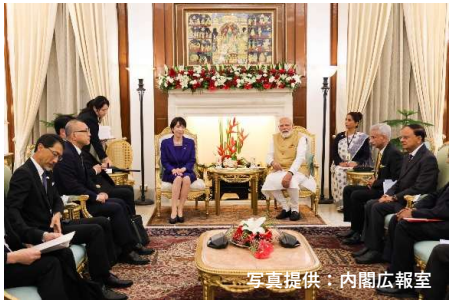
地域課題の解決と産業振興を実現する『岐阜大学－IITGモデル』を世界に発信！

参加教職員：吉田学長・小山 博之 グローカル推進機構長
西津応用生物科学部長　ほか　　計4名

7月2日にインドで開催された**日印首脳会談**に伴い、デリー（インド）で開催された**日印経済フォーラム**にて、**吉田学長が、岐阜大学とインド工科大学グワハティ校（IITG）との人材育成を中心とした地域連結性の向上に関する取組みについて紹介。**

日印両国首相が出席し連携を深める方針を表明

日印両国の政府機関及び企業関係者が一堂に会し、製造業、先端技術分野等における協力促進についてパネルディスカッション及び情報共有を行う場となった。
高市早苗内閣総理大臣及びインド共和国のナレンドラ・モディ首相も出席し、高市総理は、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」を発展させた「共に、強く豊かになる」という理念を示し、両国が地域を支える民主主義国家として一層連携を深める方針を表明した。



首脳会談の様子
（高市総理とモディ首相）


両首脳とフォーラム参加者の記念写真
（高市総理の右側2人目が吉田学長）

学長がインド北東部地域の産業バリューチェーン構築をテーマに講演



セッション4登壇者の記念写真　写真提供：JETRO

岐阜大学は、本フォーラムにおいて**日印間で唯一の大学として参加**し、**吉田学長は、本学IITGとの15年以上にわたる連携実績について紹介**した。特に、IITGとの連携を軸とした「**岐阜大学－IITGモデル**」は、大学を中心として産学官が連携し、地域課題の解決と産業振興を同時に実現する**新たな国際協力の形として高い注目**を集めた。


会場の様子　写真提供：JETRO



吉田学長による発表の様子


（右）司会を務めたJDP1期生の丸山氏（JETRO）

地域と共に発展し続ける岐阜大学

出典：中部地方整備局岐阜国道事務所HP





R7.4　岐阜IC開通

⑤医療体制の強化

- 救急搬送の時間短縮
- 患者・医師の利便性向上

⑥企業誘致促進による地域、産業の活性化

- アクセス向上により企業誘致を促進
- 特にものづくり及びライフサイエンス関連企業等を誘致



■沿線市町の工場の立地状況
出典：国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所HP　ストック効果より抜粋



- 東海環状自動車道沿線では、東回り全線工事着工後、629件の工場が立地
- 今後開通予定の西回り 山県IC～大野神戸IC沿線では、工場立地件数が近年増加傾向（西回り初開通後の2012～2017年38件→2018～2023年75件 +37件増）
- 大野神戸IC周辺では、大野町、神戸町がまちづくり整備事業を実施し、企業立地が促進
- 本巣市の屋井工業団地では、東海環状道の開通を見据え、H28.7に立地協定締結し完売

岐阜IC周辺
開発イメージ



イビデン研究施設
2028年開所予定







R10 岐阜薬科大学移転予定

④ライフサイエンス学術研究拠点形成

- 岐阜薬科大学との連携強化
- ライフサイエンス分野の企業、研究施設誘致

新たな交通システム整備（岐阜県において検討中）



出典：岐阜県ホームページ
新たな交通システム整備の考え

③学生・患者の利便性向上 人が集まる場の創出



- 渋滞・混雑の緩和
- アクセス向上による大学・IC周辺地域の活性化

岐阜県まるっと
キャンパス構想

②地域の人材育成機能の強化

- 県内の大学等が**連携を強化するための体制整備**を行い、エッセンシャルワーカーや地域の担い手等の人材育成機能を強化
- 優秀な人材を養成する仕組を構築するために、県内自治体と連携して各地に**サテライトキャンパスを設置**し、高大接続事業や社会人教育を展開

- 国際化推進　インド・インドネシア等との交流
- 優秀な留学生の受入増と地域定着

キャンパスまるごと共創型社会実装大学構想

①社会実装力の抜本的強化 卓越した研究力強化 地域の国際競争力の向上



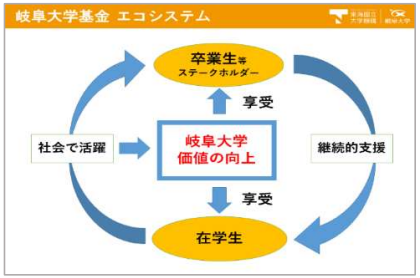
- 東海地域は世界屈指の自動車・航空機産業の集積地域であり、東海環状自動車道で結ばれる半径50km圏内には、トヨタ自動車グループの他に、航空重工業３社、大手工作機械メーカーが密集。この地の利を活かし、**ものづくりを岐阜大学の大学改革ドライバーとして組織整備**を図り、ライフサイエンス、環境科学に共創研究の仕組みを横展開し**社会実装大学へ変革**

岐阜大学基金の紹介とご支援のお願い

岐阜大学基金について

岐阜大学基金は創立60周年を契機に創設し、学生支援事業を中心に事業を展開

岐阜大学基金は、平成21年６月に創設され、奨学金や海外留学などの学生支援を中心に事業を展開してきました。
しかしながら、資金規模は依然として十分とは言えず、安定的な財源確保が課題となっています。
このような状況を踏まえ、令和２年４月に募金活動を強化するためのDevelopment Officeを設置するとともに、令和４年10月には校友会を発足させ、様々なステークホルダーとの連携による基金エコシステムの構築を進めてきました。
さらに、令和６年11月には内閣府PEAKS実証事業に採択され、中長期の戦略を策定しました。
本事業を通じて資産運用の重要性が明確となったことから、令和７年４月に**「大学経営自律化促進事業」**を設置し、令和８年より運用を開始し、基金の持続的な拡充と安定的な財源確保を図っています。



岐阜大学基金全般事業

岐阜大学基金全般事業は、大学の裁量で実施する事業で、**応援奨学生制度、国際交流促進事業**（短期海外研修奨学金助成事業、短期留学（派遣）奨学金助成、私費外国人留学生学資援助、学術交流協定校等交流促進事業）、**インド交流促進事業、教育研究活動支援、地域貢献活動支援、キャンパス環境整備、ぎふのミ･ラ･イ･工構想支援事業**の７つの事業があります。応援奨学制度、国際交流事業では、創設以来、多くの学生が支援を受けています。

岐阜大学基金ホームページ
https://www.gifu-u.ac.jp/fund/

岐阜大学基金特定事業

岐阜大学基金特定事業は、寄附者が特定した使途の寄附金をもって実施し、**岐阜大学事業奨励奨学寄付金、外国人留学生支援事業、学術アーカイブズ支援事業、産学連携推進基金（地域展開ビジョン2030、刃物学、COMIT）、岐阜大学教育学部創立160周年記念事業、岐阜大学医学部創立80周年・医学部附属 病院創立150周年記念事業、岐阜大学工学部未来振興基金助成事業、健康増進活動支援事業**、一定額以上のご寄附をいただいた場合に創設できる**７つの冠特定事業**の他、**税額控除の対象となる修学支援事業**があります。なお、寄附者の意向により、新しい支援事業を設置することも可能です。

岐阜大学基金の主な活動実績
（創設～令和7年度末）

・応援奨学生制度（368名、147,600千円）
・短期海外研修奨学金助成事業
（333名、30,715千円）
・短期留学（派遣）奨学金助成（61名、19,150千円）
・私費外国人留学生学資援助（75名、24,380千円）
・岐阜大学創立70周年記念事業（H29年度～R1年度）
（学術アーカイブズの構築など、119,463千円）
・新型コロナ関連学生支援　（Ｒ２～４年度）
（生活支援金給付など、2,405名、74,766千円）

冠特定事業
◆バロー･Vドラッグ海外研修奨学金助成事業　◆武藤昭三記念奨学基金　◆創立70周年記念アピ奨学金助成事業
◆サンディスク奨学金助成事業（旧 ウエスタンデジタル奨学金助成事業）　◆国際クラブ研究教育助成事業
◆ＣＭＣ元島アカデミーＤＥＩＢ推進プロジェクト　◆CMC元島アカデミー図書館学術情報基盤整備プロジェクト

◆ご厚志に対する謝意　→　・大学HP/広報誌への芳名記載　・銘鈑への芳名掲示　・感謝状贈呈　・広報誌の送付/公式行事のご案内